

更なるスタート 50 年

— 「歴史と伝統」を超えて—

クラブ改革提言

国際ロータリー第 2840 地区

前橋ロータリークラブ

21 世紀特別委員会 報告書

2004 年 6 月 30 日

変化

地球に生物が誕生して35億年

どういう生物が生き残ったか

変化に順応し

自らを変革させ得た生物だけが

生き残った

強いものが生き残るとは限らない

賢いものが生き残るとは限らない

変化するものだけが 生き残り成長するのだ

ダーウィン 伝

21世紀特別委員会 報告書 目次

[本編]

ご挨拶	2003－2004 年度 前橋ロータークラブ 会長	江原 毅	2
はじめに	21世紀特別委員会委員長	鳥本安彦	3
1. 提言の要約（本報告書の概要）			4
2. 現状認識			6
会員満足度アンケート			
クラブ活力テスト			
現状認識まとめ			
ベテラン会員へのヒヤリング			
3. 理想のロータリー			12
「ロータリーとは」勉強会			
ロータリー用語の意義の確認			
前橋ロータリークラブ クラブ・会員の理想像			
4. クラブ改革提言			15
クラブ改革の目標			
改革の方向性			
改革提言			
5. 次年度に向けて			20
おわりに（委員会メンバー所感）			21

【資料編】

① 委員会名簿	27
② 委員会議事録（第1回～第9回）	28
③ 参考資料	
(1) 会員満足度アンケート フォーマット	37
(2) 会員満足度アンケート 結果集計	40
(3) クラブ活力テスト（03－04 版）	43
(4) クラブ活力テスト 活用の手引き	49
(5) 『ロータリーとは』（研修配布資料）	54

ご挨拶

2003-2004年度

前橋ロータリークラブ 会長 江原 毅

平成15年9月28日 前橋ロータリークラブ創立50周年記念式典が挙行された事は、歴史と伝統を誇る我がクラブの、偉大な先達の方々の偉業を改めて敬意を持って振り返り、感謝いたすと同時に、われわれ現役会員には、更なる飛躍とそれをなすべき改革を実行して、新たなる歴史と伝統を構築すべき使命が、課せられたものと、私は思います。

その、使命を達成すべく理事会にて、「21世紀特別委員会」の創設をお許し頂き今年度後半を内部充実の期間として16名の会員の方々に研究をお願いして、勉強をしてまいりました。通常の委員会と平行して、この特別委員会のメンバーはさらに夜間の貴重な時間を費やしていただき、本当に熱心に研究をしてくださいました。会員の皆様にもいろいろご協力を頂き、特に、大先輩会員の皆様にも、途中経過報告にて、暖かいご指導を頂いたり、会員全員の皆様にも、アンケートにご協力を頂いたり、前橋ロータリークラブ会員の皆様のロータリーを愛する気持ちが、これほど強烈であるとは……。私と致しましても、改めて、前橋ロータリークラブの底力と、歴史と伝統の本当の意味をしみじみと思い知らされた気持ちが致しました。

この報告書も、新たなる挑戦への、きっかけになればと思っておりますが、山田美光年度、平出昌男年度、曾我隆一ガバナー年度に、引き継がれながら、その目的とする処を着々と、そして確実に実らせていただければと願っております。

終わりに、群馬セキスイハイム株式会社特別顧問 鳥本安彦会員 日本銀行前橋支店支店長 福田一雄会員 NHK前橋放送局局長 光野純子会員の皆様には、夜間にかかわらず、それぞれの、会議室を快くお貸し下さり、心より、そのご好意に厚く感謝申し上げる次第で御座います。

全会員の皆様、そして16名の21世紀委員会の皆様、オブザーバーの皆様、本当に有り難う御座いました。心より、御礼申し上げます。

平成16年6月30日

はじめに

21世紀特別委員会
委員長 鳥本安彦

21世紀特別委員会（以下当委員会）が江原会長の英断により、昨年10月理事会の承認を得て活動を開始して以来、今日まで16名のメンバーで半年間計9回の会合を重ね、ここに魅力ある21世紀ロータリー作りの為の改革提言を報告書として提出できる運びとなりました。

当委員会は、ロータリークラブ（以下RC）の原点を探ることから始めました。ロータリーの綱領、歴史、奉仕の理念を研究するうちに、ロータリーのもつ崇高な理想即ち21世紀にも通ずる普遍性を再確認致しました。と同時にロータリーの素晴らしさを実感し、これによりロータリー改革への自信と決意を新たにすることができました。

会員・クラブの理想は、我が前橋RCが目指すべき方向を示しています。しかしRCの現状を見ると様々な解決すべき困難な問題が横たわっていることも事実です。

当委員会のメンバーはRCが直面している課題について、白熱した議論を展開しました。予定された時間をオーバーすることもしばしばでした。メンバーの多くは、ロータリーについてこんなに自由に真剣に語ったのは近年にないことだと感想を漏らしていました。ロータリーの人間関係は平等が原則です。今後ともこのような、自由闊達に意見交換が出来る場があれば…と願っています。

この報告書は改革の提言はしていますが、実際の改革はこれからです。まだ改革の緒についたばかりです。ロータリーの綱領では、クラブの自主性を尊重し主体的な取組みを奨励するとしています。次年度も引き続き当委員会を継続すると承っておりますが、ロータリーの改革が更に次のステップへ向けて、ロータリーらしい取組みを実践していくことを期待しております。

最後に、曾我隆一ガバナーノミニー・江原毅会長・山田美光会長エレクト・平出昌男副会長には、オブザーバーとしてこの委員会に積極的に参加していただき、貴重な意見を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

また当委員会の皆様、改革提言報告書が完成しましたこと、委員会での議論を通じ報告書以上の交誼を得られましたこと、心から感謝申し上げます。有難うございました。

平成16年6月30日

1. 提言の要約（本報告書の概要）

「21 世紀特別委員会」（以下、「21 世紀委員会」と略称する）は、江原毅会長の発案で、理事会の諮問に答える今年度の特別委員会として創設された。私たちの使命は、50 周年を迎えた前橋ロータリークラブの現状を把握し、更なる飛躍を図るべく、クラブの今後の課題を明らかにすることである。

私たち 16 名の委員と 4 名のオブザーバーは、2004 年 1 月から 6 月まで、9 回にわたる会合で検討・議論した結果を、本報告書に「クラブ改革提言」としてまとめた。

現状認識（→6 ページ「2. 現状認識」）

21 世紀委員会は、幅広い年代・ロータリー歴のメンバーで構成されており、多様で広範な議論を展開することができたが、クラブの現状をより正確に把握するため、全会員対象の意識調査『会員満足度アンケート』を実施した。また、クラブの組織としての問題をより客観的に把握するため、『クラブ活力テスト』を委員会メンバー 10 名で実施した。

『会員満足度アンケート』『クラブ活力テスト』の結果を、分析・検討して得た前橋 RC の現状に対する私たちの共通認識は、以下の通りである。

- (1) 会員はクラブの現状に必ずしも十分に満足してはいない。
- (2) クラブは、組織とその運営に関して、改革すべき点が多々ある。
- (3) 私たちは、ロータリーの理念や、国際ロータリーの（諸活動の）意義について、知らないことが多い（勉強不足である）。

理想のロータリー（→12 ページ「3. 理想のロータリー」）

クラブの現状把握と並行して、「ロータリーとは何か」ということについての共通認識を得るため、勉強会やロータリー用語の意義の確認を行った。私たちが、こうしたロータリー研究で学んだことは、ロータリー理念の独自性と普遍性、そして、ロータリーの現代社会に果たす役割の可能性の大きさである。

ただ、私たちのロータリー研究は始まったばかりで、まだ極めて不十分であると認識している。研究の深化とロータリー理念についての共通認識をクラブ全体に浸透させることが、今後の課題である。

今回の現状分析やロータリー研究を基に、私たちの目指すべきクラブや会員のイメージを列挙してみたのが「前橋ロータリークラブ クラブ・会員の理想像」である。この「理想」（理想像）と「現実」（現状認識）との間のギャップを埋めてゆく筋道が、私たちの「クラブ改革提言」である。

クラブ改革提言 （→15 ページ「4. クラブ改革提言」）

クラブ改革の目標

《会員が充実したロータリーライフを享受することができ、かつ社会的評価（存在価値）の高いクラブに再生する。》

改革の方向性

- ① 長期的なビジョン・戦略を定め、年度を超えて継続的に改革を推進する。
- ② ロータリー理念の理解を深め、会員のロータリアンとしての成長を促す。
- ③ 一人一人の会員満足度を高めてゆく仕組みと運営を確立する。
- ④ 自己研鑽・相互学習の場としての例会を充実する。
- ⑤ 委員会や会合・事業の目的を再確認し、統合・再編・改革を進める。
- ⑥ 地域社会との関わり合いの深い活動・事業を強化する。
- ⑦ クラブ運営はスリム化、事業は変化に対応し選択と集中を心がける。
- ⑧ クラブ運営、役員人事、予算編成、事業計画等の透明性・公平性を高める。
- ⑨ 市民の声（社会のニーズ）を的確に受け止める仕組みをつくる。

改革提言 （→16 ページ）

提言は多岐にわたる（全18項目）が、以下の5つのテーマで整理した。

1. ロータリー理念を共有化する。
2. 例会を充実させる。
3. 委員会活動を活発にする。
4. 地域社会との関わりを深める。
5. 組織運営を活性化する。

まとめ

創立50周年は、名実共に大きな節目の年度となった。諸先輩の築き上げた「歴史と伝統」を基に、私たちは、新たな前橋 RC の歴史を刻むために前進を始めたと感じている。

21世紀にロータリーの果す役割は極めて大きいと信ずるが、私たちはその可能性を十分には発揮できていない。理想のロータリーを探求する学習を継続させなければならない。そして、私たちのクラブ改革も始まったばかりである。

2. 現状認識

委員会活動は、クラブの実態を把握することから始まった。クラブの現状に対する認識は、ロータリー経験年数や役職、個人的事情によって、様々である。私たちは、可能な限り正確に、そして客観的に現状を把握するため、『会員満足度アンケート』と『クラブ活力テスト』という 2 種類の、現状分析支援ツールを使用した。

会員満足度アンケート

『会員満足度アンケート』は、RI 発行の資料『会員増強推進用手引き』所収のものを、前橋 RC 用に一部改変したものである。(⇒資料編)

アンケートの対象者は、前橋 RC 会員全員とした。アンケート回答数は、2004 年 2 月 3 日の例会時に記入・提出していただいた 70 件と後日事務局に提出された 14 件、あわせて 84 件であった。(当時会員数 102 名に対し、回収率 82.4%)

回答の結果を要約すると、以下の通りである。

1. 会員の大多数が、「クラブに受け入れられている」と感じているが、「いいえ」と回答した 7 名 (8.3%) は、他の会員との違和感や、クラブの排他性を指摘している。
2. 前橋 RC の組織としての現状を、対比的な見方を並べて選んでいただいた結果、浮き彫りにされた前橋 RC の組織イメージは、「クラブの現状には満足しているが、活動はあまり活発とは言えない。明るく打ち解けた雰囲気はあるが、何事も当り障りのない意見が通り、前例主義である」というものである。
3. RI の提唱する活動に対する前橋 RC の参加度については、すべての項目で「適当」という回答が過半数を超えているが、「過度」で多かったのは、「募金活動」(21 名 25%)、「米山奨学活動」(19 名 23%)、「ロータリー財団活動」(18 名 21%) であった。また「不十分」と思っているのは、「地元の奉仕プロジェクト」(30 名 36%)、「クラブの広報活動」(27 名 32%)、「会員のためのオリエンテーションと教育」(26 名 31%) であった。なお、各活動のクラブ参加度を「わからない」と回答した人 (約 14%) は、ロータリー歴の浅い会員が多かった。
4. クラブの活動に対する会員の参加意識は、……
「積極的に参加」しているのは、「例会」(54 名 64%)、「親睦活動」(48 名 57%)、「委員会活動」(44 名 52%) であった。

「義務的に参加」しているのは、「募金活動」(60名 71%)、「ロータリー財団活動」(58名 69%)、「米山奨学活動」(56名 67%)であった。

「不参加」は、「会員のためのオリエンテーションと教育」(37名 44%)、「会員増強」(35名 42%)、「国際的奉仕プロジェクト」(34名 40%)であった。

5. クラブの活動に参加する際の不満足要因は、「個人的な時間の不都合」(13名 15%)、「その活動についての情報不足」(8名 10%)「本人の知識不足」(5名 6%)など。

6. 会員活動に関する費用は、過半数が「妥当」と回答しているが、「過度」の回答で多かったのは、「ロータリー財団への寄付」(32名 38%)、「米山奨学会への寄付」(25名 30%)、「クラブ会費」(19名 23%)であった。

7. 例会は、大多数(69名 82%)が楽しんでいるが、「いいえ」回答者(13名 15%)は、例会内容の不満を具体的に記している。

8. クラブの会合をより良いものにするためのアイディアは、複数回答が多く、前の設問で、例会を楽しんでいる人(それほど不満を感じていない人?)も活発に回答している。

回答で多かったのは、「より良い講演者」(56名 67%)、「地域社会と交流する機会を増やす」(39名 46%)、「より多くの会員が活躍する機会を増やす」(36名 43%)で、以下、「プログラムのテーマを充実する」(29名 35%)、「親睦活動をより強調する」(29名 35%)、「職業に関する情報を増やす」(28名 33%)と続く。

9. 会員のパートナー・家族の過半数は、「ロータリーのことをよく知らないまたは関心がない」(45名 54%)のが実態。「誇りに思っている」のは、27名(32%)であった。

なお、回答者の、ロータリー歴構成は、以下の通り。

3年以内(21名 25%)、4～10年(24名 29%)、11～20年(21名 25%)、21年以上(18名 21%)

この『会員満足度アンケート』で明らかになったのは、前橋 RC の組織としての客観的現状ではなく、会員が、前橋 RC の活動やプログラムをどう考えているか、満足しているのかどうか、ということである。

会員は、現状を受け入れてはいるが、十分に満足しているとは言えないし、多くの会員がロータリーの魅力を感じられないでいる。クラブの活動は低調で、保守的な前例主義の体質があると感じている。

例会の充実を望む声は多いが、その他の活動やプログラムに対する関心は薄

く、目的や役割も理解していないことが多い。特に、募金活動、米山奨学、ロータリー財団活動に対しては、かなり距離を感じている。会費や様々な名目で「徴収」される費用についても、負担を感じる会員がいる。

会員の家族の過半数がロータリーのことをよく知らないか関心がない、という結果は、会員自身の生活の中におけるロータリーの位置づけの低さをうかがわせる。

クラブ活力テスト

『クラブ活力テスト』は、地区会員増強・退会防止委員会が開発したクラブ活性化支援ツールで、一つ一つのクラブが、クラブ組織の現状や問題点を客観的に把握し、活力にあふれ魅力的なクラブに再生していくために何をすべきか明確にすることを目的にしている。(⇒資料編)

このテストでは、クラブ組織活性化の課題を次の5つの分野に分けている。

1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ 2. 社会貢献 3. 魅力あるクラブづくり 4. 効率的なクラブ運営 5. 活動の成果

各分野 5 つの設問、合計 25 の設問のスコアで組織の活性度／硬直度を自己診断する。

なお、このテストの背景にある価値観は、次の通りである。

- (1) ロータリー理念の普及と実践こそが、ロータリーの社会的存在価値を高める。各クラブの存在価値は、属する地域社会への貢献によって高まる。
- (2) ロータリー運動の主体は、一つ一つのクラブである。そして、クラブの活動の成否は、クラブ会員の主体的・自発的行動にかかっている。
- (3) 職業や国・地域や個性・能力等の多様性が、ロータリーの活力の源泉である。
- (4) 時代や社会環境の激変によって、ロータリークラブ（の組織や活動のあり方）は、大きな変革を求められている。
- (5) ロータリークラブを変革してゆくには、長期的なビジョン・戦略と、継続的な取り組みが必要である。
- (6) 一人一人の会員の満足度（充実感、参画意識、やりがい）を高めて行けば、クラブ全体の組織活力が高まり、効果的なクラブになる。

『クラブ活力テスト』は、第2回委員会（2004.2.19）において、出席委員10名で実施した。テストの結果を要約すると、以下の通りである。

前橋 RC の「総合評価」は、「C」となった。（委員10名の平均点 60.2 点）
評価「C」のコメントは、次の通り。

クラブの現状：あなたのクラブは、ロータリーの理念に沿った活動を実施し

ており、一定の成果も上げていますが、一部の領域で硬直化が進み、メンバーの意識にもばらつきが見られます。

対策(7トババ)：クラブの強みと弱みをメンバー全員で再確認し、体質改善・組織強化の中長期計画を策定し、それに基づいて、具体的プログラムを実施しましょう。メンバーのロータリアンとしての研鑽・学習にも力を入れてください。

分野平均では、「1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ」「3. 魅力あるクラブづくり」「4. 効率的なクラブ運営」の3分野のスコアが平均以下であった。また、各設問の平均点は、2.408点（4点満点の）であった。

評価の高い項目、ベスト5は、

1. クラブの社会的評価（設問21：平均点3.1点）
2. 会員数の維持（設問25：平均点3.0点）
3. 会員企業の社会的信頼（設問10：平均点2.9点）
4. 国際奉仕（設問8：平均点2.8点）
5. 自由な風土（設問15：平均点2.8点）

評価の低い項目、ワースト5は、

1. あなたのクラブでは、社会からの要請（環境保護、省エネルギー、禁煙、男女平等など）への対応について、目標を設定し、達成状況に応じて改善活動を行っていますか。（設問7：平均点1.8点）
2. あなたのクラブでは、環境変化やクラブの現状に適合したクラブ運営（委員会の統合、組織のスリム化、イベントの簡素化など）に努めていますか。（設問17：平均点1.9点）
3. あなたのクラブでは、会員の満足・不満足度とその要因を把握し、会員のやる気や参加意欲を高めるよう努めていますか。（設問14：平均点2.0点）
4. あなたのクラブでは、年度を超えた中・長期的な展望や計画に基づいて、クラブ改革を進めていますか。（設問16：平均点2.1点）
5. クラブの幹部（理事・役員）は、クラブの重要事項を決定する際、クラブ内外の情報・意見を収集し、会員の合意が得られるような意思決定をしていますか。（設問4：平均点：2.2点）
5. あなたのクラブは、地域社会からの社会貢献に対する要求・期待を認識し、クラブとして独自に取り組むべきプログラムを定めて社会貢献活動を行っていますか。（設問6：平均点：2.2点）
5. あなたのクラブでは、会員の気づきやアイデアを戦略や事業計画に柔軟かつ積極的に取り入れていますか。（設問12：平均点：2.2点）
5. あなたのクラブでは、新会員や若手会員に対して、退会防止や（ロー

タリアンとしての) 計画的育成のプログラムを実行していますか。(設問13: 平均点: 2.2 点)

『クラブ活力テスト』の結果から浮き彫りにされた前橋 RC の問題点は、第一に、社会との関わりの薄さ、社会への働きかけの弱さ、である。クラブの存在価値についてのプライドは高いが、実際は、社会や時代の変化に鈍感で、社会への奉仕にも熱心ではない。社会から超然とした姿が浮き上がってきた。

第二に、会員の顔が見えない、会員不在の運営ではなかったか、ということである。「歴史と伝統」を誇り、地区内でも実績のあるクラブではあるが、会員のやる気、参加意欲、充実感を喚起する運営であったとは、決して言えない。会員の主体性・能力発揮の場が少なく、ロータリアンとしての研鑽・学習の機会も少ない。総じて、硬直的で魅力に乏しいクラブ運営に陥っていた、といわざるを得ない。

現状認識まとめ

以上のデータと分析を基に、第4回委員会(04.3.16)において、委員全員で自由に意見交換した。

《フリートーク まとめ》

1. クラブ運営は、改革すべき点が多々ある。→「会員本位」の運営へ

- ① 例会を、より魅力的で充実した内容に変える必要がある。(←アンケート結果より)
- ② 委員会を活性化させ、実効のある活動へ。(重点主義、委員会の統合、情報集会のやり方、委員の任期、会員の参加希望、委員会予算、理事・役員と委員長の連携…)
- ③ ロータリーの原点・理念の勉強会を仕組みとして定例化すべき。(特に、新会員に対して)
- ④ 単年度主義(ワン・イヤー・ルール)のデ・メリットを克服する必要がある。(委員会運営、奉仕プロジェクト、予算づくり、…)
- ⑤ 「現況報告書」は、事業計画書・マニフェストとして、会長方針・委員長方針・委員会事業計画を明確に打ち出すべき。
- ⑥ (年度を超えて)クラブ予算の見直しが必要。(会費、例会の食事代、委員会活動費、ニコニコボックス、基金繰り入れ、…)
- ⑦ マンネリ化した運営やロータリーへの期待感の減退で、参加意欲が低下している会員もいる。(特に中堅会員)

2. 地区に発信力のあるクラブへ。

- ① 現在は、RI→地区→RC と、方針や情報が一方的に流れているが、主体性を持ったクラブが発信してゆく逆の流れが、本来のあり方。
- ② クラブの主体性・自主性のモデルを前橋 RC が示すことができるように。
- ③ 21 世紀委員会活動と今後の前橋 RC の改革を、地区変革の推進力にしてゆきたい。

3. 地域社会のために。

- ① 前橋 RC は、時代や社会の変化・要請に無関心でありすぎてはいなかったか。
- ② 前橋 RC が何をしているのか、外からはよく見えない。地域のためにロータリーができることは何か。
- ③ 地道で継続的な活動が求められているのではないか。

4. 重要な視点（切り口）

- ①「歴史と伝統」に安住することなく、新しいリーダークラブとしての前橋 RC の魅力づくりを。
- ②クラブの「魅力」とは、会員や社会にとって「メリット」を実感できること。前橋 RC が提供できる「メリット」を明らかにすること。
- ③ロータリーは、多忙な人たちの集まりだから、限られた時間を充実させてゆきたい。新たな負担を会員に求めるのではなく、（奉仕）活動の意義を再確認して、重点的な運営をしたい。

ベテラン会員へのヒヤリング

以上の経緯を、会長経験のあるベテラン会員 4 名にレポートし、以下の貴重なアドバイスをいただいた。（04 年 4 月 2 日実施。出席者：大林、大橋、前田、手塚、江原、板垣、烏本、福田、本田〈敬称略〉）

1. 理事会の機能をもっと高めるべき。時間、内容、構成メンバー。
2. 例会について
 - ①会長の時間は、ロータリーの話をしかりと。②クラブ・フォーラムの活用。課題・問題点の議論を深めるために。（会費、寄付、…）③テーブルは、固定席なくす。（固定席では、新会員の名前なかなか覚えられない）
3. 委員会の統合はかまわないが、歴史的経緯を踏まえて慎重に（友好、記録保存）。

4. 現況報告書は「作文」に終わっている。現況報告書を、本当の事業計画書にする必要がある。
5. 米山・財団への距離感を感じる（クラブから遠くなった）。長年続けてきた連続表彰は価値があるが、それにこだわらなくてもよいかもしれない。
6. 最近の RI のやり方には疑問が多い。2001 年の規定審議会の決定（「一業種一人」の廃止）は、ロータリーの趣旨をゆがめている。
7. 新会員の勧誘時、昔は、会員候補者の家庭に出向いて、家族にも十分な説明を行っていた。入会時のロータリーの説明も、別途時間を設けて 1 時間かけて行った。
8. 21 世紀委員会は、画期的な試み。アンケート結果とフリートークの「まとめ」ができたことだけでも意義がある。

3. 理想のロータリー

21 世紀委員会では、前橋 RC の現状の問題点について活発に議論したが、それでは、理想的な状態とはどういうものか、クラブや会員のあるべき姿とは何か、ということについての共通認識は当初なかった。第一、私たちはロータリーのことをまだよく知らない。アンケート結果にも表れていたが、入会以来、まとまったロータリー教育を受けた記憶がない。まず、「ロータリーとは何か」を再確認して、議論の共通基盤を創ろうということになった。

「ロータリーとは」勉強会

第 3 回委員会（04.3.3）で、「ロータリーとは」勉強会を実施した。アンケート結果を受けて、入会 3 年以内の「新会員」にも参加を呼びかけたところ、委員 10 名、新会員 14 名、計 24 名の参加となった。

勉強会のテキストは、国際ロータリー第 2680 地区（兵庫）のバスター・ガバナー田中毅氏（ホームページ『ロータリーの源流』の主宰者）の研修資料『ロータリーとは Rotary?』（パワーポイント⇒資料編）を使わせていただいた。

ロータリーの綱領（＝目的）を確認し、ロータリーの思想の流れ（歴史）をたどることで、「奉仕の理想」の意義、職業奉仕概念の独自性と重要性が認識できた。また、奉仕のあり方をめぐる論争や決議 23-34 の意義を確認した。ロータリーの組織運営、プログラムの概要も学んだ。

この勉強会は、委員会メンバーにとって初めての本格的なロータリー研修の機会となり、その後の議論を深めるために大いに有効であった。参加した新会

員の感想も、「初めてロータリーの素晴らしさに触れた気がする」「ロータリーに入会したことに確信が持てた」と、大変好評であった。

ロータリー用語の意義の確認

勉強会や議論の過程で、ロータリーで使われる言葉（ロータリー用語）について、少しずつ共通認識ができてきたが、個々のロータリー用語の意義について、理念や歴史、そして出典に照らして再定義・再確認する時間は残念ながら、なかった。

例えば、「例会」とは、平等な立場での事業上の発想の交換が行われる、職業人としての研鑽の機会である。会員が楽しみながら、奉仕の理想が高められる場であるから、ロータリーの集会として最も重要なのである。

例会「出席」が強調されるのも、例会の意義の重要性に鑑みてのことである。「出席義務」という言葉が安易に使われるが、『手続要覧』英語版では「義務」という表現はない。（日本語版に出てくる「出席義務規定」は誤訳か？『手続要覧』の日本語訳には、注意が必要。）「出席」は、奉仕の勉強の機会であるから、「義務」ではなく権利、会員資格を有する者（会員）なら当然行使すべき権利と考えるべきであろう。

「親睦」はクラブ運営の重要要素ではあるが、ロータリーは親睦を目的とする団体ではない。「親睦」は、会員同士の平等な人間関係の前提であり、ともにロータリー活動を行う結果生まれる友情の表れである。……

今後、下記の実語について、こうした本質的な議論を行い、用語の一つ一つを再定義してゆくことが望まれる。そして、再定義された意義に照らして、前橋 RC の諸活動を継続的に評価・改善したり、クラブとしての方針を定めたりする必要があると考える。

ロータリークラブ。職業奉仕。奉仕の理想。社会奉仕。団体としての奉仕活動。国際奉仕。新世代奉仕。クラブ奉仕。例会。プログラム。出席。親睦。理事会。会長。幹事。SAA。各委員会。会員増強。クラブ協議会。クラブフォーラム。情報集会。会費。ニコニコボックス。ロータリーにおける寄付。ロータリー財団。米山記念奨学会。ワン・イヤー・ルール。……

前橋ロータリークラブ クラブ・会員の理想像

ここまでの現状分析や勉強会で、私たちの目指すべきクラブや会員の姿が明らかになってきた。それをまとめたのが、以下の「クラブの理想」「会員の理想」である。この「理想」（理想像）と「現実」（現状認識）との間のギャップを埋めて行く筋道を示すことが、私たち 21 世紀委員会の課題である。

クラブの理想

1. 明るく活気に満ちた組織風土である。
2. 会員のニーズに適った会員本位の運営を行っている。
3. 会員は、充実したロータリーライフを享受し、満足度が高い。
4. （地域）社会に存在価値を認められている。（地域の北°ニオリーダー）
5. 例会や委員会活動が活発である。
6. 理事会がリーダーシップを発揮している。
7. 入会を希望する会員候補者が多い。
8. 会員に多様な「奉仕の機会」を提供できる。
9. 独自の奉仕プログラムを持っている。
10. 専門職務者同士の「事業上の発想の交換」が活発に行われている。
11. 会員の学習と成長の環境が整っている。
12. 親睦と友情を育む機会がある。
13. バランスのとれた職業構成が保たれている。
14. 会員基盤が安定しており、成長力がある。
15. 「歴史と伝統」に安住せず、また前例にとらわれず、内外の環境変化に対応し、新しい試みに挑戦している。
16. 指導者を養成したり、有益な情報・実例を発信したりできる、他の模範となるリーディング・クラブである。

会員の理想（真のロータリアン）

1. 善良な市民である。
2. ロータリーの「奉仕の理想」を深く理解し、信奉している。
3. 高い職業倫理を持ち、自らの事業の社会的価値の向上に努めている。
4. 学習意欲が旺盛で、人間的成長を続けている。
5. クラブ外の社会で、積極的に奉仕の実践を行っている。
6. 会員同士の親睦と友情を大切にする。
7. クラブ奉仕に積極的に参加している。
8. RI 提唱の奉仕プロジェクトへ、積極的に参加している。
9. クラブを超えた指導力を身につけるよう努力している。

4. クラブ改革提言

「理想」（クラブ・会員の理想像）と「現実」（現状認識）との間のギャップを埋めて行く筋道を示すため、私たちは、①社会から望まれるクラブづくり、②会員から見た魅力あるクラブづくり、という二つの切り口を定めて、それぞれ分科会（第5回委員会～第7回委員会の3回にわたって）で検討を進めた。二つの分科会での議論は、「クラブ改革」にフォーカスし、重なり合い呼応する部分が多い。そこで、二つの分科会のレポートを統合し、以下のような「クラブ改革提言」にまとめた。

クラブ改革の目標

《会員が充実したロータリーライフを享受することができ、かつ社会的評価（存在価値）の高いクラブに再生する。》

1. 楽しい例会や積極的な委員会活動を通じて、異業種間の有益な発想の交換や人脈づくりが期待できるクラブを目指す。
2. 常に時代や社会の要請に的確に応える奉仕のあり方を追求し、社会から好感を持たれ尊敬されるクラブを目指す。
3. 前例主義や総花主義の「伝統」やクラブ運営の形骸化・硬直化を打破し、時代や社会の変化に対応した、柔軟かつ重点的で透明性の高い運営を目指す。

改革の方向性

- ①長期的なビジョン・戦略を定め、年度を超えて継続的に改革を推進する。（ワン・イヤー・ルールの特長は堅持しつつも、そのデメリットを克服する）
- ②会員間でロータリー理念の理解を深め、会員のロータリアンとしての成長を促す。
- ③一人一人の会員満足度（充実感、参画意識、やりがい）を高めてゆく仕組みと運営を確立する。
- ④個々の会員が、それぞれの職業において時代の要請に応える（職業奉仕）ために、クラブにおいて切磋琢磨する自己研鑽の場を充実する。

- ⑤委員会や会合・事業の目的・役割・機能を再確認し、統合・再編・改革を進める。
- ⑥会員から見て、より手触り感・実感のある委員会活動・事業にして行く。特に、クラブの団体としての奉仕活動については、地域社会との関わり合いの深い活動・事業を強化する。
- ⑦クラブ運営はスリム化を心がけ、社会奉仕・国際奉仕などクラブとして行う事業（寄付・助成を含む）については、社会の要請の変化に応じ、常に（年度ごとに）弾力的にその内容を見直す。また、メリハリの効いた事業の選択と集中を進める。
- ⑧クラブ運営、役員人事、予算編成、事業計画等の透明性・公平性を高める。
- ⑨「社会から望まれるクラブ」になるため、市民の声（社会のニーズ）を的確に受け止める仕組みをつくる。そして、さらに一歩進めてクラブから社会に対して提案する「社会に望む」事業を生み出すことを目指す。

改革提言

1. ロータリー理念を共有化する。

- ①全会員対象のロータリーの勉強会を定例化する。
 - (1) 歴史、奉仕理念（職業奉仕と社会奉仕）の学習は必須であろう。クラブ定款・細則についても定期的に（年1回）確認する機会を持つ必要がある。規定審議会（3年に1回）の変更事項の解説は十分に行う。
 - (2) ロータリー理念の学習に関してはベテラン会員や地区役員経験者の知識や知恵を生かしたい。
 - (3) 全会員対象の勉強会は、例会の中で企画するのが望ましい。
- ②新会員へのオリエンテーションを強化する。
 - (1) 会員のクラブやロータリーに対する姿勢・距離感は、入会3年以内に定まる。新会員に対して、ロータリアンとしての自立を促す育成プログラムが必要である。
 - (2) 入会初年度は、十分に正しいロータリー情報を提供し、クラブ・メンバーとして打ち解けてゆけるよう見守る必要がある。
 - (3) 例会以外の会合や委員会活動にも積極的に参加を促す。
 - (4) 入会3年間は、毎年新しい委員会を経験してもらう（計画的ローテーション）。

③会員の自発的な研究・勉強会を奨励する。

新しい奉仕のアイデア、IT化の推進、ロータリー研究等の自発的な勉強会やプロジェクトを、クラブとして活動支援し、具体化・事業化のめどが立てば、理事会で審議し、委員会活動・事業等に組み込んでゆく。

2. 例会を充実させる。

①出席が楽しい例会にする。

- (1)相互啓発・自己研鑽の場として内容を充実する。卓話・スピーチは時間を十分にとり、異業種の新鮮な話、話者の職業奉仕、その年度のテーマに即したものの等をお願いする。
- (2)外部卓話者は、その年度のテーマに即した専門家や、有力な会員候補者等を考慮して選定する。
- (3)居心地の良さ、ほっとする場、交流・親睦の場としての配慮を行う。席の配置の工夫など。また、他クラブからのメーキャップを歓迎する雰囲気づくりも、工夫が必要である。

②オープンなコミュニケーションの場とする。

理事会審議事項をオープンにし（十分な情報公開）、決定事項の周知・徹底を図る。

③クラブ・フォーラムを活用する。

様々なクラブの問題解決に向けて、自由な意見交換やアンケートを行う。

3. 委員会活動を活発にする

①委員会活動を強化する。

- (1)各委員会の目的・役割を再確認し、統合・再編を検討する。委員会数は可能な限り絞り込み、クラブ奉仕・職業・社会・国際奉仕の大分類の中で、事業のメリハリ、資源（人的・予算）の有効配分を毎年検討する。
- (2)委員長の権限、予算の裁量権を明確にする。
- (3)新委員長へのオリエンテーションを強化する（クラブ協議会の活用）。
- (4)「3年委員」のルールのある委員会以外でも、年度を越えた活動の継続性・方針の一貫性を保つため、委員長・副委員長クラスの一人、メンバーの1/3程は再任も可能としたい。

②委員会の活動・事業内容は、毎年見直す仕組みを作る。

- (1)毎年度、委員会活動・事業の成果を評価の上、継続の必要性・事業内容の変更・撤廃の可否を審査する仕組みを明確化する。成果が捗々しくな

い事業や歴史的使命を終えた事業は廃止した上で、有意義な事業に予算・人的資源を集中させる。

(2)次年度事業については、次年度委員を中心に早めに検討を開始すべきである。4月頃を目処に次年度委員会メンバーによる検討をスタートさせ、新旧委員による合同検討会も開催したい。

③「現況報告書」を事業計画書として充実させる。

「現況報告書」は、各委員会の前年度総括を踏まえた「事業計画書」の性格をもつものとしたい。したがって制作にあたっては、前年度会長・幹事が十分にサポートする。前年度本決算・総括を踏まえた事業計画書としての「現況報告書」の発行は毎年8月末までとする。ガバナー公式訪問が7～8月に予定される場合は、必要最小限の仮報告で対応する。(ガバナー公式訪問にあわせて「現況報告書」を取りまとめることはしない)

4. 地域社会との関わり合いを深める。

①常に市民の声を聴き、また市民に対して発信する仕組みをつくる。

地域ニーズを的確に把握して効果的事業を実施することができるよう、あるいはまた、前橋 RC の地域社会における存在価値を高めてゆけるように、市民の声を定期的に聴く仕組み（インタビュー、アンケート、座談会等）をつくり、計画的・戦略的な広報活動を行う必要がある。

②近隣クラブとの連携を強化する。

近隣クラブと連携し、他団体・行政府・公的機関等との協力の可能性を探る。クラブ間の連携は、前橋地区 6 クラブから出発し、必要に応じ、地区全体に共同参画を呼びかける。

③「社会に望む」事業を検討する。

地域のニーズを探索し受け止めるだけでなく、前橋 RC が地域に対して提案する、オリジナルの「社会に望む」事業を検討する。例えば、前橋市の町おこしや町の活性化に関する提案など。

④50周年記念植樹クスノキの成長を見守る。

前橋市大室公園に記念植樹したクスノキの成長をクラブとして永続的に見守りたい。夏休みを利用した小中学生対象の写生大会と公開例会による表彰式は継続したい。あわせて、公園内のクスノキ周辺を清掃する早朝例会の実施も検討したい。

5. 組織運営を活性化する。

①幹部のリーダーシップ機能を高める。

- (1)当年度会長の方針・主体性を尊重し、理事会はそれを積極的に支援する。
- (2)幹部のクラブに対するサービス（奉仕）機能を高める。すなわち、幹部は情報の共有化、合意形成、会員に対する動機付け、環境変化への素早い対応に意を配る。
- (3)クラブの最高意思決定機関である理事会は、審議の時間を十分にとる。
- (4)クラブ協議会を活用し、幹部の連携と委員会活動支援を強化する。
- (5)クラブ幹事の役割を整理し（理事・役員・委員長などとの役割分担を進め）、負担を軽減する。

②効果的な予算づくりの仕組みを作る。

- (1)3年度（前年・今年・次年度）幹事で、予算委員会を構成する。毎年、下期に次年度予算について、委員会で検討し、次年度理事会にレポートする。
- (2)クラブの諸活動に関するトータルの資源は、現状程度の会員負担を上限としたい。ロータリー財団、米山奨学会への寄付も、クラブ独自の、または地域社会に対する奉仕活動等とのバランスを検討し見直したい。
- (3)運営のスリム化・効率化を積極的に進め、会費値下げも検討したい。
- (4)ニコニコボックス収入の使い方、クラブとしての各種団体への寄付も見直したい。

③職業分類表を整備し、「会員増強」（組織強化）に活用する。

- (1)「会員増強」の本旨はクラブ組織の充実・強化である。新会員の勧誘も、組織強化にふさわしい候補者を多角的・多面的に探索する必要がある。最新の前橋の産業構成の実態を調査し、充填・未充填職業分類を整理する。それに基づき会員候補者を選定する。
- (2)女性会員勧誘は、地域の実態を反映した多様で均衡のとれた職業分類の確保という観点から、強化する。

④『会員満足度アンケート』を継続（定期的）実施する。

- (1)例えば、毎年12月頃実施し、理事会または専門委員会（21世紀委員会など）で分析・評価し、次年度の施策に反映させることで、継続的に会員満足度を向上させてゆく。
- (2)「会員満足度」以外にも、会員の意識や意見を調査する（会員の声を聴く）ためのアンケートは、適宜実施すべきである。

⑤前橋ロータリークラブ文庫を創設する。

前橋 RC の歴史の中で積み重ねてきた膨大な情報・資料を整理し、先人の知恵を継承・発展させていきたい。あわせて、電子データのファイル化も推進する。

5. 次年度に向けて

私たちの「クラブ改革提言」は、クラブの諸課題を可能な限り多角的な観点から検討しようと試みたが、もちろん、十分にそれができたとは考えていない。残念ながら、議論を深める時間が足りなかった項目も多い。最終的にまとめられた提言項目以外にも、様々なアイデアが各委員から出された。「提言」の中には具体的なものもあるし、考え方を示すにとどまっているものもある。今すぐに採用・実施できるものもあるし、引き続き検討を要するものもある。

今すぐ実行可能な提言は、理事会で審議し、できることから実現していただきたいが、提言内容をクラブ運営の中に本格的・体系的に導入したり、仕組みとして定着したりしてゆくことができるのは、2005－2006 年度以降となろう。

2004－2005 年度は、21 世紀委員会の継続(第2期)が予定されているので、継続的・発展的な検討・研究を期待したい。また、理事会、会長・幹事、各委員長の皆さんが連携して、「改革提言」をたたき台に、クラブ運営の改革案の具体化に着手していただければ幸いである。

本報告書では、現状に対する批判や認識不足による不適切な表現があるかもしれないが、他意はない。私たちは委員会で、前橋 RC のあるべき姿について真剣に議論した。白熱した議論もあった。委員会には、確かに自由で明るく活気に満ちた空気があった。第2期委員会には更に多くの会員に加わっていただき、活力あるクラブづくりを推進していただきたい。

重要なのは、前橋ロータリークラブの21 世紀の新しい「歴史と伝統」を創っていく「クラブ改革」が、今まさにスタートしたということである。

おわりに

情熱 会長 江原 毅

6月29日(火) さよなら例会が終了して、2次会にも行かずに真っ直ぐ家にかえる。会員の皆様の1年間に亘るご支援に、心から感謝申し上げつつ何ともいえない、開放感と安堵の気持ちで、この原稿を書く。静かな夜になると思いながら、パソコンに向かうが、季節外れの、雷が鳴り出す。我が家の小さな池には、今年は、未だ、蛍が光らない。自然の摂理は正直だ。ありのままに、時は流れ、輪廻を、繰り返す。

人の心は、計り知れない。全ての事象に、心を燃やすことは出来ない。それぞれが、心を燃やすものを、選別している。情熱は気ままなものだ。

不思議なめぐり合いによって、106名の方々が、前橋ロータリークラブと言う連帯の輪の中に入っていただき、奉仕という輝ける目的の為に、情熱を、燃やす。その情熱は、冷めることを知らず、50年の歴史を刻みながら、さらに、前へ、前へ、と前進を繰り返す。新たなる、歴史と伝統を構築すべくそのエネルギーは、情熱へと昇華する。

ロータリークラブは、不思議なクラブだ。なぜ、これほど多くの素晴らしい会員の方々が、このクラブを選別して戴き、そのほとぼしるような情熱を燃やして戴けるのだろうか。奉仕の精神に、全ては帰着するからだろうか……。

皆様の情熱に、心から、感謝申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

ロータリー・モザイク

2005-06 RID2840 ガバナー・ノミニー 曾我 隆一

1935年ロータリーの創始者ポール・ハリスが発刊した「ロータリーの理想と友愛」原文では "This Rotarian Age" の中に、「---ロータリーは一人の人間、或いは何人かの人達の靈感によってできたものではあり得ないのだ」と書かれています。また、1959-60のRI会長ハロルド・T・

トーマス著「ロータリー・モザイク」で、その緒言で上記について触れられ強調されています。

この100年間、世界中のロータリークラブの幾千万という現在及び過去の会員達の集団的考え方と辛苦の努力によって、積み重ねられてきました。それはまさに、ロータリー・モザイクの総合デザインの中のほんの一部としてはめ込まれるに過ぎないといえます。

前橋RCの今回のクラブ改革提言はサブタイトルのように、「歴史」と「伝統」を超えて21世紀のロータリーのあり方を探求し続ける価値ある足跡と確信し、地区内外のロータリアンによる知恵と実行力によってロータリー・モザイクが更に一層美しく花開くことを祈ってやみません。

提言を受けて 会長エレクト 山田 美光

一更なる50年、歴史と伝統を超えてー前橋RCが50周年を迎えたのを期に、江原会長は21世紀特別委員会をスタートさせた。地区内最大の会員数、歴史と伝統を誇る前橋RCが現在の地位に甘えることなく、地区のオピニオンリーダーとして力を発揮するには、会員一人一人の能力も然ることながら、組織の風土・文化すなわち組織能力をより高めようとの配慮からだと思察する。

私もオブザーバーとしてこの委員会に出席させていただいたが、会員の真剣な白熱した自由闊達な議論に前橋RCの力強さを感じた。また、よくこの短期間にここまでまとめられたものだと思心もし、感謝申し上げます。

この提言には具体的なもの、まだ検討しなければならないものもありますが、実施できるものは、次年度より取り組みたいと思います。

引き続き、さらなる50年に向けてご検討願いますことを祈念いたします。

活動の原点に 副会長 平出 昌男

本年度はロータリー創立100周年を迎える記念すべき年であります。100年を振り返り、次の100年に向けてどうあるべきかを問う年でもあります。当クラブに

においては魅力ある21世紀のロータリー創りを考えるべく“前橋RC21世紀委員会”が発足し、社会から望まれるクラブづくり、会員から見た魅力あるクラブづくりの2面から改革提言がなされました。

ロータリーの原点の勉強会、クラブ会員のロータリーに対する意識調査を踏まえて、鳥本委員長を中心とするロータリー会員歴年度毎の構成メンバー16名により、6ヶ月に亘る大変活発な議論を経てまとめられたものです。

如何にこの提言を具現化していくかが大切なことであります。この提言に対し色々な意見があるものと思いますが、その精神は古き良きものを残す勇氣と、絶ちがたきものを絶つ勇氣であります。今後の会員の皆様からの意見、議論を踏まえ、将来を見据えた活動の原点となることを期待しております。

また2005～06年度は曾我ガバナー年度であり、前橋ロータリークラブからのガバナー事務所へのメッセージとして、新生前橋ロータリークラブのスタートとして大変貴重な提言であると考えます。提言のまとめにご尽力を頂きました16名の委員の皆様にご心よりの御礼を申し上げます。

歴史と伝統を超えて 委員長 鳥本 安彦

我が前橋ロータリークラブを呼称する時、殆どの人が「歴史と伝統を誇る…」と冠する。他のクラブのロータリアンが我がクラブにメーキャップする場合、敷居が高くて遠慮しがちだとも言う。これも歴史と伝統のなせる業なのか。

我がクラブでは、これまで前例主義と総花主義が当たり前のようになってきた。委員会活動や予算も前例主義、人事の決め方も一般ロータリアンから見ると不透明なことが多かった。これも伝統なのか。伝統にも良き伝統と悪しき伝統が併存していることを痛感する。

「残すものと捨てるもの、そして新しく起こすもの」21世紀委員会では、この歴史と伝統を議論していたわけではないが、視点を変えるとまさにこの議論をしていたのかもしれない。

物事を改革しようとする場合、殊更以上

に悪さ加減を暴露する傾向がある。我が前橋ロータリークラブの短所をあぶり出した感はあるが、それでも私自身、居心地の良さは他のどのクラブより良いと信じている。又今回のように、改革をしようとリーダーが号令をかけると一気に全員が改革の方向へ進む。これも我がクラブの長所である。(あるいは伝統か・・・)

最後に今回の21世紀委員会に16名のメンバーが、非常に熱心に約半年間の討議に参加されこの報告書が出来上がったこと、委員長としての重責を果たせたこと、メンバー全員に感謝しています。ありがとうございました。

ロータリーの奥深さ 副委員長 狩野 議一

21世紀特別委員会ではメンバーの方々と一緒に勉強をさせていただき、改めてロータリーの奥深さを感じました。入会後数年して、細瀬先輩の指導の下で3年に一度の「規定審議会」が(1989)行われ「手続要覧」の勉強会に参加させてもらいました。

あれから15年もたちなんとなく色々なロータリー用語を使っていますが、勉強会で用語の解釈についてそれぞれが理解している度合いに大きな差があることに気がつきました。又、この勉強会に参加していなければそのこと自体にも注意を払わずに毎日が過ぎていったと思います。

今回の特別委員会においては、一つ一つについて結論を出すのが目的ではなく、自由な意見、発想の転換、疑問を出し合って、新たな方向を見つけようという試みは、私の知る限り(少ないロータリー生活)ではなかったと思います。

「変えてはいけない部分」。「変えなくともよい部分」。「変えなければいけない部分」。今後この委員会で色々な提言が行われると思います。変化することへのパワーを持ちたいと思います。

新たな第一歩

坂内 光政

前橋RC21世紀委員会のメンバーの1名に加えていただいたことに、まず御礼を申し上げます。そしてなにより驚きは、委員会メンバー、或いはオブザーバーで委員

会に出席された、当前橋 RC 会員のロータリーへの熱い情熱でありました。

今回の委員会の成果は、単に目新しさを追いかけたものではなく、ロータリーの目的とは何かという原点を振り返り、明日への新しいロータリー活動を模索するものであったと感じました。

5月23日の2004年 RI 国際大会開会式に参加して、ロータリアンのロータリーに対する熱い思いを感じとることができました。また同時にロータリーを取巻く環境が厳しさを増し、退会者の増加、会員減少、予算減少、活動の低迷化などの危惧が大きく広がっていることを改めて認識いたしました。

今回の 21 世紀委員会の検討成果が、半世紀を越えた前橋 RC の新たな第一歩を踏み出す活動へ大きな寄与をし、曾我ガバナール年度への強力な援助をするものとなることを確信しております。新年度からも継続される 21 世紀委員会が、素晴らしい活動を継続されることを期待しております。

チットモ解っていなかった！ 板垣 忍

なるべく静かに、何事も控えめに、言われたことにはハイと答え、質問はしない。これがロータリーの極意であると教えられ、自分なりに守ってきたつもりでした。多分体育会系の私に対する「グズグズ言わずにしっかりヤレ！」というノリでご指導されたものと思っています。

でも、これでは素晴らしい会員の皆様との触れ合いは楽しめますが、ロータリーそのもの（異業種の、しかもトップマネジメントの集合体・組織体・活動体として）の魅力を見出すのに時間がかかり過ぎます。入会后 10 年経過し、やっと最近少し解かりかけてきたかなあと思ってきた矢先「何だ、チットモ解っていなかったじゃないか」ということが解りました。

それぞれの分野でのスペシャリストとしての会員の皆様と、もっともっと語り合い、私達には何が出来るのか・何をしなくてはならないのかを楽しみながら実行していきたいと大なる野望？を抱かされた委員会でした。

次年度幹事として 遠山 巍

明治維新以来、多くの外国文化が日本に取り入れられていますが、日本人はそれらを 2 通りの方法で取り扱っています。

1 つは、それらをまるで金科玉条のように崇め奉るべき対象とみなすもので、我々はそれに問答無用で従うことを強制されます。ロータリークラブという組織はまさに、そういう取り扱いの典型的な外国文化、とぼくには感じられます。

もう 1 つの取り扱いは、たとえば野球にみられます。野球はアメリカ人から、日本の野球はベースボールではない、ということと言われたことがあります。それは日本人が外国文化を、自分たちの思い通りに改革したからです。キリスト教もそうです。日本人キリスト教徒は、ヨーロッパやアメリカのキリスト教徒とはずいぶん異なります。柔道や弓道などの日本文化が外国に取り入れられる場合にも、これら 2 つの異なった姿が見られます。

どちらもそれぞれ意義がありますが、その渦中にあるものにとっては、金科玉条はつらいですね。ですから、江原会長によって提唱されたこの 21 世紀委員会は、次年度幹事を引き受けるぼくにとって、大きな自由を与えてくれたと感じています。

この委員会における議論のおかげで、ロータリークラブの考え方がよく理解でき、前橋ロータリークラブ、地区などが持つ問題点がよく見えてきました。また、委員会メンバーの中の幹事経験者によって、予算の問題点も指摘してもらいました。改革に着手できるポジションにタイムリーにいられることをとても幸運に思います。

時を得た奉仕活動を 平方 宏

全出席はできませんでしたが、大変勉強になりました。特に、勉強会の「ロータリーの思想の流れ」の中で、ロータリーは人生哲学であり「利己的な欲求と他人への奉仕の相反する二つの心の葛藤である」という言葉がとても印象に残りました。

これは企業人としての基本的姿勢も問われています。また各自が地域社会の住民なので、生活者の視点を忘れないことが必要です。同時に地域や社会を良識ある方向に

導くという自負をもたなければなりません。

マザーテレサの言葉に「私たちは大きなことはできません。小さなことを大きな愛でなすだけです。」というのがありますが、一人一人がこの精神で臨む以外、良い活動の方法はないと思います。また善意をなすには正しい方向性が必要ですが、これは会員の英知を結集すべき問題だと思います。

奉仕活動のタイミングと必要性。多忙な会員たちですが、今後ますます研鑽を積んで、実業人でなければ成し得ない、時を得た奉仕活動を心がけるべきだと思います。

ロータリーの真価 今井 健介

今回21世紀委員会に加えていただき、前橋ロータリークラブの過去・現在・未来の戦略について学ぶことが出来とても参考になりました。100年にも及ぶ国際ロータリーの歴史、そして50周年を迎えた前橋ロータリークラブの歴史は、常にその真価が問われ続けた結果であると思います。

内に向かっては会員相互の親睦と研鑽を深め、外に向かっては社会貢献を行い、さらに外においてそれぞれの企業活動をとおしての社会貢献に努力する。その姿こそがこれまで社会において認知された存在価値ではないでしょうか。

不易流行といわれますが、理念やそれに基づく綱領(クリード)を確固たるものにして、価値観や社会の形態の変化に応じた活動がなされるべきと考えます。会議への出席率が悪く反省しておりますが、今後ともよろしくお願いいたします。

ロータリーの可能性 副委員長 本田 博己

委員会メンバーの皆様との自由で率直な議論を通じて、少しはロータリアンとして成長することができたかな、と感じています。

今回の委員会活動を通して、私自身の最大の成果は、ロータリーの魅力と可能性の大きさを「発見」したことです。ロータリーが世の中に対して発信することができる価値は極めて高いのですが、そのことを私たちロータリアンは忘れている(疎かにしている)のではないかと。そのことを痛感した半年間でした。

前橋 RC を改革して魅力あるロータリーに再生しよう、という共通認識はできたと思います。組織改革が成功するポイントは、メンバーそれぞれの多様性を認め、得意分野を学びあうこと。そして、メンバー一人一人の個性と能力を十全に発揮できる環境を確保すること、だと思います。そういう意味でも、前橋 RC は大変恵まれていると感じます。次年度21世紀委員会活動のさらなる広がりを大いに期待しています。

委員・オブザーバーの皆様、半年間本当にありがとうございました。

クラブの主体性を発揮しよう 土屋 純

次年度の社会奉仕委員長という大役を仰せ付けられ、委員会の議を経ずに現況報告書を提出することに困惑するとともに、責任の重さを痛感した次第です。そこでこの機会に私なりにロータリーにおける社会奉仕の基本的な考え方を学び、21世紀特別委員会の議論の中で、「奉仕の精神」の理解を深めることができたと感じております。

さて、ロータリーにおける情報伝達は一方的なトップダウンとの批判があり、各ロータリークラブが主体性をもって情報を発信していくボトムアップの流れが求められています。この考え方を踏えて今回のクラブ改革提言もなされていますが、個々の会員が職業奉仕を出発点として社会奉仕や国際奉仕をするというロータリーの基本理念を尊重する一方で、優れたトップリーダーの指導力と個々のロータリアンの意識改革が求められていると思います。このような観点から私も委員長としての責務を全うする所存であります。

認識と改革の継続 福島 英人

21世紀に入り、より複雑な社会になっている今、歴史を重ね伝統が受け継がれている前橋ロータリークラブの、これから進む道を考えようとする委員会に、会員歴5年の私が参加させて頂いた事を大変光栄に思っています。

通常の委員会ではその組織を維持していくことで精一杯ですが、今回のような現状認識、理想、改革と具体的にいろいろな視点から積極的に意見が出て、議論出来た事は本当に素晴らしいと思います。多種多様

な意見があって、そこで多くの人々が納得できる方向に持っていけるように議論する事が大切だと思います。話し合いの中から前橋ロータリークラブが発展して、進化して行く道筋が一つでも見つければうれしい限りです。

「歴史と伝統」は「認識と改革を継続していく事」と信じ、前橋ロータリークラブの会員としてこれからも積極的に見守っていききたいと思います。

ありがとうございました 古澤 英明

「前橋クラブですか。21世紀委員会で真剣な検討をしているようですね。如何ですか？」と他クラブでのメーキャップの際、よく聞かれました。評判になるとともに、多くの期待がありました。

私個人としては、終盤の1回しか出席できず、残念でありました。横浜3年、会津若松2年、前橋3年と、3RCに約8年お世話になり、メーキャップを数多くしてきましたが、他クラブの印象を少し述べます。

- ・ にこにこBOXは小額でも件数が多い。
- ・ 開会直後にお互いに握手をし合う。
- ・ ビジターにも週報を配布する。
- ・ 「会長の時間」がないクラブもある。
- ・ 外部卓話が多い。
- ・ 各種のインフォーマル・ミーティングが多い。等々

以上、思いつくまま書きましたが、いずれにしても前橋RCが、本委員会の提言を基本にさらに充実・発展されることを祈念し、退会のご挨拶ともさせていただきます。

ロータリアンとしての自覚 山田 邦子

始めに、出席率の悪かったことを、お詫びします。そして、ロータリークラブの中で、このような意見交換の場があったことに、親近感を覚え、クラブ員である実感を持てました。

『歴史と伝統』の裏付けとなる具体例を説明していただき、これから守っていくべきもの、加えていきたいものが、整理されて見えてきました。地域にあって、地域のリーダーであり、サポーターとしての役割を持ったロータリアンの自覚が見えてきたように思いました。その意味で、新人教育の場として、十分な効果はありました。

では、これから、どうしていくかが、課

題です。いくつも良い案が出されましたが、これらを修正・実行するため、更に新たな名案を出すためにも、話し合いの場を継続して頂きたいと思います。遑経歴ロータリアンの縦割りグループなどは、いかがでしょうか。

ロータリーとボランティア 望月 和子

何回かの出席になってしまいました。特に第3回の勉強会に出席できなかったのが残念でした。ロータリーにおける社会奉仕とは、個人が基本であり、そのうえに全体の奉仕があるということを、理解しました。

私は、分科会A「社会から望まれるクラブづくり」に属していました。いろいろ意見がありました。ロータリーの特色を活かした社会奉仕として、何ができるのかは、まだわかりません。

現在環境問題や介護等さまざまなボランティア活動が盛んになされています。NPO法人も多数あります。そんなボランティアの内容を評価する活動を、ロータリーとして考えてもいいのではないのでしょうか。現在の支援活動を、検討して、時代のニーズにあったものにしていく必要もあると思います。それと例会の卓話の一つに、ロータリーについてのお話をに入れていただけると、うれしいのですが。

本質からの議論 副委員長 福田 一雄

当委員会の蓮っ葉な最年少参加者としての感想を申し述べます。発足当初、ロータリー貢献度ゼロの私が少しぐらいお役に立てればという軽い気持ちで参加したのですが、実際は「どひゃあ」とひっくり返る新鮮な発見の連続でした。

委員会の運営自体は、それぞれ強烈な経営理念を持っておられる企業経営者の皆様ですから紆余曲折の連続でしたが、最後はコンパクトな報告書に纏まっていきました。

転機は2回あったと思います。一つは本田副委員長の講義、もう一つは途中参加された土屋会員のレジメ。いずれも基本理念に立ち返るという本質からの議論でした。

そうしたシンプルな視点から見つめ直した時、今やってることの実際は違うねということになり、急速に求心力を持ったと感じています。私自身の肩書きは「名誉職」

と揶揄されそうな働きしか出来ませんでした。が、暖かくご教示いただいた鳥本委員長、狩野副委員長以下20名のメンバーの皆様に心から感謝申し上げます。

ロータリーは人生哲学 光野 純子

「ロータリークラブを活性化するために新たに委員会を設けるので、メンバーになって活発な意見ををお願いします」と、お誘いがあり、まだ入会1年に満たない私は、ロータリークラブとは何かという確たるものがないままに、1回目の会議に臨みました。

最初の“クラブ活力テスト”で、私の総合点は最も甘い81点Bランクでした。つまり、そんなに変革しなくてもいいのではないか・・・という数字です。しかし、「ロータリーとは何か、その歴史と綱領」を勉強させていただき、4回、5回と会議を重ねていくうちに、会員の皆さんの様々な思いをうかがい、ロータリアンとしての地域活性化への熱意を感じるようになりました。

勉強会で私の心に残ったのは、「ロータリーは人生哲学」という言葉です。ロータリーを活性化させることは、つまり、利己的な欲求も他人への奉仕も調和させて、自分も他人もみんなと一緒に“幸せになろうよ”ということなのかもしれない、と勝手に解釈しました。

現状分析を積み重ねた後に具体的行動案を立てなければ、会議は単なる会議に終わってしまいます。私が以前お会いした経済人で最も行動的だったサントリーの故・佐治敬三社長は、常に、「やってみなはれ！」と社員に勇気づけておっしゃっていました。ロータリーの2年後、3年後の改革なのか、今年できることなのか、地域のために計画的に行動に移し「やってみなはれ！」と互いに背中を押す時が来ていることを、この21世紀委員会を通して知ることができました。江原会長、鳥本委員長の下で全9回の会議でしたが、さらに次年度以降も続くことを期待しています。

(以上、オブザーバー4名、委員16名)

[資料編]

①委員会名簿

前橋ロータリクラブ 21世紀特別委員会 委員名簿

会員名		職業分類	会員歴
*江原 毅	2003－04 会長	倉庫	21年
*曾我 隆一	2005－06 RID2840 がバナー・ミニ	製粉	27年
*山田 美光	2003－04 会長エレクト	建築設計	20年
*平出 昌男	2003－04 副会長	紙卸売	15年
鳥本 安彦	委員長	住宅建築	13年
狩野 議一	副委員長	建築資材販売	17年
坂内 光政		司法書士	16年
吉田 勝彦		鉄構工業	13年
板垣 忍		社会保険労務士	11年
遠山 巍		専門学校	10年
平方 宏		木材販売	8年
今井 健介		酒造	8年
本田 博己	副委員長	乳製品販売	8年
土屋 純		大学名誉教授	6年
福島 英人		不動産	5年
古澤 英明		電力供給	4年
山田 邦子		内科医	1年
望月 和子		皮膚科医	1年
福田 一雄	副委員長	中央銀行	1年
光野 純子		公共放送	1年

*印は、オブザーバー。

②委員会議事録（第1回～第9回）

前橋RC21世紀委員会

第1回委員会報告

2004/01/20 1:10PM～

前橋ロータリークラブ例会場

<出席者>

江原		曾我		山田美		平出		鳥本	
狩野		本田		福田		坂内		吉田	
遠山		今井		平方		福島		古澤	
山田邦		望月		光野		板垣			

会長挨拶 江原 毅会長

創立50周年を節目に、魅力ある21世紀のロータリー創りを目指して、「前橋ロータリークラブ 21世紀特別委員会」（通称：21世紀委員会）を発足した。前橋RCのあるべき姿を研究し、年度末の6月までに、報告をお願いしたい。

議 題

1. 委員会運営について

委員長を鳥本安彦会員に、副委員長を狩野議一会員、本田博己会員、福田一雄会員の3名にお願いする。

2. アンケート実施について

クラブの現状を把握するため、全会員対象のアンケートを実施する。RI指定の「会員満足度アンケート」のサンプルを加工して、前橋RCオリジナルを作る。2月3日の例会の時に実施し、次回の委員会で分析する。

3. 今後の予定について

2月以降、月2回のペースで会合を持ち（計9回）6月末までに報告書をまとめる。

＊次回委員会開催日 2/19（木）6:30PM～ 群馬セキスイハイム

前橋RC21世紀委員会

第2回委員会報告

2004/02/19 6:30PM～

群馬セキスイハイム(株)本社会議室

＜出欠＞

江原	○	曾我	○	山田美	×	平出	○	鳥本	○
狩野	×	本田	○	福田	○	坂内	×	吉田	×
遠山	○	今井	×	平方	○	福島	×	古澤	×
山田邦	×	望月	×	光野	○	板垣	○		

会長挨拶

委員長挨拶

議 事

1. 「会員満足度アンケート」集計報告と分析
2. 「クラブ活力テスト」の実施
3. その他

1. 「会員満足度アンケート集計結果」を皆で分析し、その後「クラブ活力テスト」を全員で実施しました。次回委員会で、その確認とまとめを行います。
2. 今後の委員会スケジュールに変更があります。(別紙で確認お願いします)
次回より、午後6時集合になります。
3. 次回(第3回)のみ、会場が NHK 前橋放送局になりますので、お間違えのないようにお願いします。
今回は、ロータリーの理念と歴史を学び、あるべきクラブ像を考えることが主なテーマです。(「ロータリーとは」勉強会) 21世紀委員会の重要ステップですので、ご出席よろしくお願いします。
4. なお、次回の勉強会には、委員会以外の入会3年以内の会員にも参加を呼びかけています。

＊次回委員会開催日 3/3 (水) 6:00PM～ NHK 前橋放送局

前橋RC21世紀委員会

第3回委員会報告

2004/03/3 (水) 6:00PM～

NHK 前橋放送局 1F スタジオ

<出欠>

江原	○	曾我	×	山田美	○	平出	○	鳥本	×
狩野	○	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	×
遠山	○	今井	×	平方	×	福島	×	古澤	×
山田邦	×	望月	×	光野	○	板垣	○		

<勉強会出席者> 14名

入会3年以内の会員：浅見、狩野明、大脇、本行、斎藤熙、新開、星野、
田中岳、松山、萩原、石川、菊川、都丸和、山田浩（敬称略）

会長挨拶・NHK光野局長挨拶

議事（進行：本田）1. 「クラブ活力テスト」分析結果報告

2. 「ロータリーとは？」勉強会

3. 勉強会出席者と意見交換

1. 前回、委員10名で実施した「クラブ活力テスト」の結果は、総合評価「C」でした。（コメント：ロータリーの理念に沿った活動を実施しており、一定の成果も上げているが、一部の領域で硬直化が進み、メンバーの意識にもばらつきが見られる）個々の項目のスコアは、会員全員対象に実施した「会員満足度アンケート」結果から推定されるクラブの問題点を裏付ける結果となっています。
2. 2680地区パスト・ガバナー田中毅氏作成の研修資料を使って、ロータリーの綱領（＝目的）、職業奉仕概念の重要性、奉仕の実践に対するロータリーの基本姿勢（決議23-34）等を学びました。今回の勉強会は、入会3年以内の会員にもオープン参加を呼びかけ、14名の方々が出席しましたが、好評でした。新会員に対する早期のしっかりしたロータリー教育の重要性を再認識しました。
3. 勉強会の後、オープン参加の14名に感想をお聞きしたところ、大変新鮮で貴重なご意見を伺うことができました。今後の委員会活動の中で検討すべき視点が多々得られました。以上

*次回委員会（第4回）3月16日（火）午後6時～ 群馬セキスイハイム㈱

前橋RC21世紀委員会

第4回委員会報告

2004/03/16 (火) 6:00PM～

群馬セキスイハイム(株) 本社会議室

<出欠>

江原	○	曾我	×	山田美	○	平出	○	鳥本	○
狩野	○	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	○
遠山	○	今井	×	平方	○	福島	○	古澤	×
山田邦	○	望月	○	光野	○	板垣	×		

会長挨拶

委員長挨拶

議 事

1. 前回までの振り返り、現状分析結果確認
2. あるべきクラブ像、あるべき会員像とは？
3. 取り上げるべきテーマの抽出
4. その他

1. 第2回委員会でのフリートークのまとめ、そして、「会員満足度アンケート」「クラブ活力テスト」のまとめを行いました。
2. これまでの検討を踏まえて、「あるべきクラブ像」「あるべき会員像」をイメージしながら、現状の問題点・課題を話し合いました。(まとめは次回)
3. 次回から2回は、以下のテーマとメンバーで、分科会を行います。

●分科会 A テマ：地域社会から望まれるクラブづくり

メンバー：福田副委員長 (リーダー)、曾我、平出、鳥本、吉田、
今井、福島、望月、光野 (敬称略)

●分科会 B テマ：会員から見た魅力あるクラブづくり

メンバー：狩野副委員長 (リーダー)、江原、山田美、坂内、遠山、
板垣、平方、古澤、山田邦、本田 (敬称略)

*次回委員会(第5回) 4月13日(火) 午後6時～ 群馬セキスイハイム(株)

前橋RC21世紀委員会

第5回委員会報告

2004/04/13 (火) 6:00PM～

群馬セキスイハイム(株) 本社会議室

<出欠>

江原	×	曾我	○	山田美	○	平出	○	鳥本	○
狩野	○	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	○
遠山	○	今井	○	平方	×	福島	○	古澤	×
山田邦	○	望月	○	光野	○	板垣	×		

山田会長エレクト挨拶

議 事

1. 委員長報告
2. 前回までの振り返り
3. 分科会

○ 山田会長エレクト挨拶：21C委の検討を参考に、次年度事業計画を策定したい。

1. 鳥本委員長報告：ベテラン会員へのヒヤリングを行ったが、21C委の現状分析や方向性については、概ね賛同していただいた。
2. 前回までの振り返り：前回フリートークまとめ（別紙）。「クラブ・会員の理想像」案をたたき台として作成（別紙）。
3. 分科会：別紙「分科会要領」を参照。
今回と次回は、分科会で、具体的な改革提案を検討します。

*次回委員会（第6回）4月27日（火）午後6時～ 日本銀行前橋支店

前橋RC21世紀委員会

第6回委員会報告

2004/04/27 (火) 6:00PM～

日本銀行前橋支店 会議室

<出欠>

江原	○	曾我	○	山田美	○	平出	○	鳥本	○
狩野	×	本田	○	福田	○	坂内	×	吉田	×
遠山	○	今井	○	平方	○	福島	○	古澤	×
山田邦	○	望月	○	光野	○	板垣	○	土屋	○

会長挨拶・日銀福田支店長挨拶

委員長挨拶

議 事

1. ロータリークラブにおける奉仕活動
2. 分科会 (第2回目)
 - A:社会から望まれるクラブづくり
 - B:会員から見た魅力あるクラブづくり

1. ロータリークラブにおける奉仕活動

次年度社会奉仕委員長の土屋会員より問題提起。クラブとしての社会奉仕のあり方について議論しました。
2. 分科会

分科会は、議論すべきテーマが多いので、次回まで続けることになりました。次回の後半、全員で分科会での議論のまとめ方を検討します。

*次回委員会 (第7回) 5月18日 (火) 午後6時～ 群馬セキスイハイム(株)

前橋RC21世紀委員会

第7回委員会報告

2004/05/18 (火) 6:00PM～

群馬セキスイハイム(株) 本社会議室

<出欠>

江原	○	曾我	×	山田美	○	平出	×	鳥本	○
狩野	×	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	×
遠山	○	今井	○	平方	○	福島	○	古澤	×
山田邦	×	望月	○	光野	×	板垣	×	土屋	○

会長挨拶

委員長挨拶

議 事

1. 分科会 (第3回目)

A:社会から望まれるクラブづくり

B:会員から見た魅力あるクラブづくり

2. 分科会まとめ

3. 報告書のまとめ方について

○二つの分科会で共通するテーマについて、合同（全員）ですりあわせを行いました。

○次回、A・B分科会のレポートを、全員で検討することになりました。

○報告書の構成について、目次案を確認しました。

*次回委員会 (第8回) 6月1日 (火) 午後6時～ 群馬セキスイハイム(株)

前橋RC21世紀委員会

第8回委員会報告

2004/06/01 (火) 6:00PM～

群馬セキスイハイム(株) 本社会議室

＜出欠＞

江原	○	曾我	○	山田美	○	平出	○	鳥本	○
狩野	○	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	×
遠山	○	今井	×	平方	×	福島	○	古澤	○
山田邦	×	望月	×	光野	○	板垣	○	土屋	○

会長挨拶

委員長挨拶

議 題

1. 分科会まとめ
2. クラブ改革提言・アクションプランの検討

○分科会 A・B それぞれのリーダーより、分科会での検討内容をレポート。

それを踏まえて、全員で、「クラブ改革提言」「アクションプラン」について検討しました。

○次回委員会（第9回）が最終回となりますので、それまでに、委員長・副委員長で、報告書全体の作成と「提言」内容のまとめを進めることになりました。

＊次回委員会（第9回）6月22日（火）午後6時～ 群馬セキスイハイム(株)

前橋RC21世紀委員会

第9回委員会（最終回）報告

2004/06/22（火）6:00PM～

群馬セキスイハイム(株) 本社会議室

＜出欠＞

江原	○	曾我	○	山田美	○	平出	○	鳥本	○
狩野	○	本田	○	福田	○	坂内	○	吉田	×
遠山	○	今井	×	平方	○	福島	○	古澤	×
山田邦	○	望月	×	光野	○	板垣	○	土屋	○

会長挨拶

委員長挨拶

議 題

1. 報告書の最終確認
2. その他

- 報告書全体の構成を皆で確認し、内容について意見交換を行いました。後は、6月30日までに、委員長・副委員長で最終調整をして、7月理事会に提出する準備をします。
- メンバー全員の所感を報告書の最後に掲載します。（6／28締切）
- 報告書は、理事会で報告後、例会で会員に報告します。（鳥本委員長）
- 報告書は、本編・資料編あわせて60ページを超えますが、クラブ全員にコピーで配布したいと思います。
- 次期（山田年度）も21世紀委員会は継続しますが、テーマ、メンバーを確定し再開するのは、秋頃となる予定です。
- これで、第1期21世紀委員会の活動をすべて終了します。半年間、お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。

③参考資料 (1)会員満足度アンケート フォーマット

会員満足度アンケート

前橋ロータリークラブ 21 世紀委員会

このアンケートは、会員の、クラブの活動・運営に対する満足度を知るためのものです。クラブ運営改善の基礎資料となりますので、会員の皆様全員に記入をお願いしています。無記名ですので、率直なご意見をお聞かせください。（以下の質問の該当する項目に印を付けてください。）

1. あなたは、前橋ロータリークラブに受け入れられている（歓迎されている）と感じますか。 ☐ はい ☐ いいえ

1-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- ☐ クラブが排他的である ☐ 他の会員は自分とは異質であると感じる
☐ 自分が他の会員と交流する努力をしていない
☐ 他の会員が私と交流する努力をしていない
☐ その他の理由（具体的に） _____

2. あなたは、前橋ロータリークラブの組織としての現状をどう思いますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- ☐ 現状に満足している ☐ 現状に不満な点がある
☐ 活発に活動している ☐ 活動はあまり活発ではない
☐ 自由闊達でオープンな風土がある ☐ 何事も当り障りのない意見が通る
☐ 明るく打ち解けた雰囲気である ☐ 堅苦しくよそよそしい雰囲気である
☐ 前例主義である ☐ 変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である
☐ その他 _____

3. 前橋ロータリークラブが、RI や地区の提唱する、下記の活動に参加している度合いについてどう思いますか。

活動の種類

クラブの参加の度合い

新会員勧誘	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
会員のための初エディションと教育	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
地元の奉仕プロジェクト	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
国際的奉仕プロジェクト	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
クラブの広報活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
募金活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない

ロータリー財団活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
米山奨学活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
地区主催の会合・プロジェクト	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない
他クラブとの交流・親睦活動	☐ 過度	☐ 適当	☐ 不十分	☐ わからない

4. 前橋ロータリークラブの活動に対するあなたの参加状況を記してください。

活動の種類	参加状況		
例会	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
委員会活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
会員増強	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
会員のための初エンターションと教育	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
地元の奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
国際的奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
クラブの広報活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
募金活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
ロータリー財団活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
米山奨学活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加
親睦活動	☐ 積極的に参加	☐ 義務的に参加	☐ 不参加

5. あなたは、クラブの活動およびプロジェクトへの参加に対し満足していますか。

☐ 非常に満足 ☐ 満足 ☐ 不満足

5-2 「不満足」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を）

- ☐ 自分の知識不足 ☐ その活動についての情報が不足している
☐ 性格的に合わない ☐ リーダーや他の会員から支援がない
☐ 出費が多い ☐ 個人的な時間の不都合
☐ その他（具体的に） _____

6. 下記の会員活動に関する費用をどう思いますか。

費用の種類	費用に対する見解		
クラブ会費	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
夜間例会・情報集会等の臨時の会費	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
奉仕プロジェクトへの寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
ロータリー財団への寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
米山奨学会への寄付	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
義援金・募金等	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分
親睦活動	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分

その他（具体的に） _____ ☐ 過度 ☐ 妥当 ☐ 不十分

7. あなたは、毎週の例会を楽しまれていますか。

☐ はい ☐ いいえ

7-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。

理由（具体的に） _____

8. 前橋ロータリークラブの会合をより良いものにするためのアイデアをお聞かせください。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- | | |
|---|--|
| ☐ より良い講演者 | ☐ 親睦活動をより強調する |
| ☐ プログラムのテーマを充実する | ☐ 職業に関する情報を増やす |
| ☐ 奉仕の機会を増やす | ☐ 時間の管理をより良くする |
| ☐ より多くの会員が活躍する機会を増やす | |
| ☐ 地域社会と交流する機会を増やす | ☐ 家族が参加する機会を増やす |
| ☐ その他（具体的に） _____ | |

9. あなたの配偶者／パートナー／家族は、あなたがロータリーに参加していることに関してどのように思っていますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

- | | |
|--|---|
| ☐ 誇りに思っている | ☐ 時間をかけすぎと思っている |
| ☐ もっと知りたいと思っている | ☐ 費用がかかり過ぎと思っている |
| ☐ 他のロータリー配偶者／パートナー／家族との交流を求めている | |
| ☐ ロータリーのことをよく知らない／関心がない | |
| ☐ その他（具体的に） _____ | |

○最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。

☐ 3年以内 ☐ 4～10年 ☐ 11～20年 ☐ 21年以上

ご協力ありがとうございました。

③参考資料(2)会員満足度アンケート 結果集計

会員満足度アンケート 結果集計

2004. 2. 20

前橋ロータリークラブ 21世紀委員会

《2004年2月3日実施 例会出席者70名》+

《郵送による(2/19締切)14名》 = 合計84名

2. あなたは、前橋ロータリークラブに受け入れられている(歓迎されている)と感じますか。 ☐ はい 75 ☐ いいえ 7 無回答 2

1-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。(該当する項目すべてに印を付けてください)

- ☐ クラブが排他的である 2 ☐ 他の会員は自分とは異質であると感じる 4
☐ 自分が他の会員と交流する努力をしていない 5
☐ 他の会員が私と交流する努力をしていない 1
☐ その他の理由(具体的に) ○年代が違う

2. あなたは、前橋ロータリークラブの組織としての現状をどう思いますか。(該当する項目すべてに印を付けてください)

- ☐ 現状に満足している 36 ☐ 現状に不満な点がある 19
☐ 活発に活動している 11 ☐ 活動はあまり活発ではない 17
☐ 自由闊達でオープンな風土がある 11 ☐ 何事も当り障りのない意見が通る 18
☐ 明るく打ち解けた雰囲気である 29 ☐ 堅苦しくよそよそしい雰囲気である 14
☐ 前例主義である 37 ☐ 変化に柔軟に対応し、新しい試みに積極的である 6
☐ その他 ○より市民に見える活動を。Ex.市民生活サポート活動

4. 前橋ロータリークラブが、RI や地区の提唱する、下記の活動に参加している度合いについてどう思いますか。

活動の種類	クラブの参加の度合い			
新会員勧誘	☐ 過度0	☐ 適当66	☐ 不十分8	☐ わからない10
会員のための初エンタテインメントと教育	☐ 過度0	☐ 適当46	☐ 不十分26	☐ わからない12
地元の奉仕プロジェクト	☐ 過度0	☐ 適当47	☐ 不十分30	☐ わからない7
国際的奉仕プロジェクト	☐ 過度6	☐ 適当51	☐ 不十分11	☐ わからない16
クラブの広報活動	☐ 過度1	☐ 適当44	☐ 不十分27	☐ わからない12
募金活動	☐ 過度21	☐ 適当54	☐ 不十分2	☐ わからない7
ロータリー財団活動	☐ 過度18	☐ 適当50	☐ 不十分2	☐ わからない14

米山奨学活動 ☐ 過度 19 ☐ 適当 56 ☐ 不十分 0 ☐ わからない 9
 地区主催の会合・プロジェクト ☐ 過度 2 ☐ 適当 58 ☐ 不十分 8 ☐ わからない 16
 他クラブとの交流・親睦活動 ☐ 過度 0 ☐ 適当 53 ☐ 不十分 20 ☐ わからない 11

4. 前橋ロータリークラブの活動に対するあなたの参加状況を記してください。

活動の種類	参加状況		
例会	☐ 積極的に参加 54	☐ 義務的に参加 28	☐ 不参加 2
委員会活動	☐ 積極的に参加 44	☐ 義務的に参加 30	☐ 不参加 10
会員増強	☐ 積極的に参加 13	☐ 義務的に参加 36	☐ 不参加 35
会員のためのリエゾンと教育	☐ 積極的に参加 12	☐ 義務的に参加 35	☐ 不参加 37
地元の奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加 29	☐ 義務的に参加 43	☐ 不参加 12
国際的奉仕プロジェクト	☐ 積極的に参加 10	☐ 義務的に参加 40	☐ 不参加 34
クラブの広報活動	☐ 積極的に参加 11	☐ 義務的に参加 45	☐ 不参加 28
募金活動	☐ 積極的に参加 20	☐ 義務的に参加 60	☐ 不参加 4
ロータリー財団活動	☐ 積極的に参加 16	☐ 義務的に参加 58	☐ 不参加 10
米山奨学活動	☐ 積極的に参加 20	☐ 義務的に参加 56	☐ 不参加 8
親睦活動	☐ 積極的に参加 48	☐ 義務的に参加 30	☐ 不参加 6

5. あなたは、クラブの活動およびプロジェクトへの参加に対し満足していますか。

☐ 非常に満足 2 ☐ 満足 53 ☐ 不満足 28 無回答 1

5-2 「不満足」の場合、どうしてですか。（該当する項目すべてに印を）

☐ 自分の知識不足 5 ☐ その活動についての情報が不足している 8
☐ 性格的に合わない 1 ☐ リーダーや他の会員から支援がない 1
☐ 出費が多い 3 ☐ 個人的な時間の不都合 13
☐ その他（具体的に） ☐ 内容がつまらない

6. 下記の会員活動に関する費用をどう思いますか。

費用の種類	費用に対する見解		
クラブ会費	☐ 過度 19	☐ 妥当 64	☐ 不十分 1
夜間例会・情報集会等の臨時の会費	☐ 過度 11	☐ 妥当 72	☐ 不十分 1
奉仕プロジェクトへの寄付	☐ 過度 15	☐ 妥当 67	☐ 不十分 2
ロータリー財団への寄付	☐ 過度 32	☐ 妥当 51	☐ 不十分 1
米山奨学会への寄付	☐ 過度 25	☐ 妥当 58	☐ 不十分 1
義援金・募金等	☐ 過度 16	☐ 妥当 66	☐ 不十分 2
親睦活動	☐ 過度 2	☐ 妥当 79	☐ 不十分 3
その他（具体的に） _____	☐ 過度	☐ 妥当	☐ 不十分

7. あなたは、毎週の例会を楽しまれていますか。

☐ はい 69 ☐ いいえ 13 無回答 2

7-2 「いいえ」の場合、どうしてですか。

理由（具体的に）☐ 嫌ではないが、楽しむほどではない ☐ つまらない

☐ 他会員との交流が不十分 ☐ 形式的すぎる ☐ 型通りの例会

☐ 情報の質と量が乏しい ☐ 例会内容の再検討が必要

☐ (スピーカーの) 人物としての魅力が感じられない

☐ 火曜日の12時開催が、(時間的に) 出席が非常に難しい

☐ 義務であるから

8. 前橋ロータリークラブの会合をより良いものにするためのアイデアをお聞かせください。（該当する項目すべてに印を付けてください）

☐ より良い講演者 56

☐ 親睦活動をより強調する 29

☐ プログラムのテーマを充実する 29

☐ 職業に関する情報を増やす 28

☐ 奉仕の機会を増やす 11

☐ 時間の管理をより良くする 2

☐ より多くの会員が活躍する機会を増やす 36

☐ 地域社会と交流する機会を増やす 39

☐ 家族が参加する機会を増やす 4

☐ その他（具体的に）☐ 夜間例会を増やす 4 ☐ 「奉仕の理想」を考えること

☐ 座席を固定しない ☐ 他県クラブ・国外 RC との交流

9. あなたの配偶者／パートナー／家族は、あなたがロータリーに参加していることに
関してどのように思っていますか。（該当する項目すべてに印を付けてください）

☐ 誇りに思っている 27

☐ 時間をかけすぎると思っている 6

☐ もっと知りたいと思っている 9

☐ 費用がかかり過ぎると思っている 8

☐ 他のロータリー配偶者／パートナー／家族との交流を求めている 4

☐ ロータリーのことをよく知らない／関心がない 45

☐ その他（具体的に）☐ イベントの時は参加してくれる

☐ そんなに意識していない

○最後に、あなたのロータリー歴を教えてください。

☐ 3年以内 21

☐ 4～10年 24

☐ 11～20年 21

☐ 21年以上 18

その他 ☐ RI や地区の規約にしばられないで、各クラブに自主性を持たしたらどうですか

*総数 84名 80% = 67名 70% = 59名 60% = 50名 50% = 42名

40% = 34名 30% = 25名 20% = 17名 10% = 8名

③参考資料(3)クラブ活力テスト

クラブ活力テスト (2003～2004年度版)

この「クラブ活力テスト」は、あなたのクラブの組織活性度を簡便に自己診断し、問題解決の方向性やポイントを知るためのものです。以下の全25の質問にお答えください。各質問には、5つの選択肢（評語）があります。あなたの主観で結構ですので、最も近いと思う評語に○を付けてください。（別紙「評点集計表」に記入）制限時間はありませんが、10分程度で記入・集計をお願いします。その後、「活用の手引き」の、評価のガイドラインや運用基準を確認して、自己診断してください。

1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ

(1)あなたのクラブの会員は、ロータリーの「奉仕の理想」の理念やロータリーの存在意義を認識し、その価値観を共有していますか。

- 4：全員が理念を十分に認識し、共通の価値観を持っている。
- 3：多くの会員が理念を認識し、共通の価値観を持っている。
- 2：多くの会員は、理念は言葉では知っていても、関心は薄い。
- 1：理念を認識する会員は少なく、話題になることもない。
- 0：ほとんどの会員は、ロータリーの理念や存在意義にまったく関心がない。

(2)あなたのクラブの将来像(あるべき姿)は明確になっていますか。またそれは、会員の共通認識になっていますか。

- 4：将来像は明確で、全員であるべきクラブづくりに取り組んでいる。
- 3：クラブの現状を認識し、将来像づくりに取り組んでいる。
- 2：現状に対する危機感はあるが、対応できていない。
- 1：多くの会員が現状に満足し、何もする必要はないと思っている。
- 0：ほとんどの会員は、クラブの将来像など考えたことがない。

(3)クラブの幹部(理事・役員)は、ロータリーの理念やクラブ運営方針を会員に納得、共感してもらうために、率先してコミュニケーションを図っていますか。

- 4：幹部の連携は十分で、あらゆる機会に効果的に働きかけている。
- 3：意識的に繰り返し働きかけている。
- 2：働きかけてはいるが、部分的で、個別対応に留まる。
- 1：意識はあるが、場当たりにしか働きかけていない。
- 0：働きかけていない。その意識がない。

(4)クラブの幹部(理事・役員)は、クラブの重要事項を決定する際、クラブ内外の情報・意見を収集し、会員の合意が得られるような意思決定をしていますか。

- 4：幹部の連携は十分で、あらゆる機会に効果的に実行している。
- 3：意識的に繰り返し実行している。
- 2：実行しているが、部分的で、個別対応に留まる。
- 1：意識はあるが、場当たりに実行している。
- 0：実行していない。その意識がない。

(5)クラブの幹部(理事・役員)は、社会の要求やクラブ内外の環境変化に素早く対応するための組織作りやクラブ運営を行っていますか。

- 4：幹部の連携は十分で、あらゆる機会に効果的に実行している。
- 3：意識的に繰り返し実行している。
- 2：実行しているが、部分的で、個別対応に留まる。
- 1：意識はあるが、場当たりに実行している。
- 0：実行していない。その意識がない。

2. 社会貢献

(6)あなたのクラブは、地域社会からの社会貢献に対する要求・期待を認識し、クラブとして独自に取り組むべきプログラムを定めて社会貢献活動を行っていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(7)あなたのクラブでは、社会からの要請(環境保護、省エネルギー、禁煙、男女平等、など)への対応について、目標を設定し、達成状況に応じて改善活動を行っていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(8)あなたのクラブでは、RI の提唱する国際奉仕の趣旨を認識し、積極的に支援活動を行っていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(9)あなたのクラブでは、RI の提唱する新世代奉仕の趣旨を認識し、積極的に支援活動を行っていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(10)あなたのクラブの会員が所属する企業・事業所は、企業倫理（法令遵守・不正防止・性差別防止など）を守り、環境保全などの社会的責任を果たし、地域社会から信頼されていますか。

- 4：全会員企業が、地域社会から信頼されている。
- 3：多くの会員企業が、地域社会から信頼されている。
- 2：会員間で、企業倫理や社会的責任に対する意識は、薄い。
- 1：地域社会から信頼されている会員企業が少ない。
- 0：社会的な不祥事を起こした会員企業がある。

3. 魅力あるクラブづくり

(11)あなたのクラブでは、会員が自主的・積極的に活動に取り組めるような環境を整えていますか。また、会員の功績を顕彰する仕組みがありますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(12)あなたのクラブでは、会員の気づきやアイデアを戦略や事業計画に柔軟かつ積極的に取り入れていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(13)あなたのクラブでは、新会員や若手会員に対して、退会防止や(ロータリアンとしての)計画的育成のプログラムを実行していますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(14)あなたのクラブでは、会員の満足・不満足度とその要因を把握し、会員のやる気や参加意欲を高めるよう努めていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(15)あなたのクラブは、意思決定の仕組みがオープンで、年齢やロータリー歴などにこだわらない自由な対話の風土ができていますか。

- 4：自由闊達で開放的な雰囲気があり、活発に活動している。
- 3：明るく打ち解けた雰囲気だが、活動はあまり活発ではない。
- 2：何事も当り障りのない意見が支配的で、意思決定がはっきりしない。
- 1：長老支配や前例主義がはびこり、組織として停滞している。
- 0：会員の意識はばらばらで、組織として崩壊寸前である。

4. 効率的なクラブ運営

(16)あなたのクラブでは、年度を超えた中・長期的な展望や計画に基づいて、クラブ改革を進めていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(17)あなたのクラブでは、環境変化やクラブの現状に適合したクラブ運営(委員会の統合、組織のスリム化、イベントの簡素化など)に努めていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(18)あなたのクラブでは、会員増強・退会防止のための具体的活動を行っていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(19)あなたのクラブは、他クラブや地区と密に連携・情報交換し、また、他の良い事例に学んでいますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々実行している。
- 1：過去に実行したことはあるが、今はしていない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

(20)あなたのクラブでは IT を活用して、情報・データを共有化・有効活用したり、コミュニケーションを良くしたり、クラブ運営を効率化したりしていますか。

- 4：効果的に実行し、大きな成果を上げている。
- 3：繰り返し、あるいは定期的に実行している。
- 2：時々、あるいは部分的に実行している。
- 1：計画はあるが、まだ実行していない。
- 0：実行したことがない。その計画もない。

5. 活動の成果

(21)あなたのクラブは地域社会・RI からどのように評価されていますか。

- 4：奉仕団体として高く評価され、表彰状・感謝状等多数授与されている。地域社会から尊敬されている。
- 3：奉仕団体として認められ、表彰状・感謝状等も授与されている。
- 2：過去に表彰状・感謝状等を授与されたことがある。
- 1：地域社会から奉仕団体として十分に認識されていない。
- 0：地域社会のほとんどの人がクラブの存在を知らない。

(22)魅力あるクラブへの変革は進んでいますか。また、クラブ経営（財務）の健全性は保っていますか。

- 4：活力のある魅力的なクラブとして再生し、健全性も保っている。
- 3：方向性を定めて変革に着手しており、健全性も保っている。
- 2：変革の検討を始めた。見直すべきところが多い。
- 1：変革の必要を感じない。見直すべき点はない、と思っている。
- 0：会員は無気力で、クラブの存続がおぼつかない状態である。

(23)あなたのクラブの会員は、ロータリアンとして社会から尊敬される人格陶冶に努めていますか。

- 4：会員は、社会的に信頼・尊敬されている職業人で、幅広く地域貢献活動を行っている会員も多い。
- 3：熱心に学び、奉仕活動に積極的に参加する会員が多い。
- 2：議論はするが言葉だけで、奉仕活動には消極的な会員が多い。
- 1：奉仕活動に関心のない会員が多い。
- 0：ほとんどの会員が、儲け話かゴルフの話しかしない。

(24)あなたのクラブの会員満足度は年々向上していますか。

- 4：毎年会員満足度を測定しており、その値は向上している。
- 3：会員満足度を測定して、対策を講じたことがある。
- 2：会員満足向上の必要性は認めるが、まだ何もしていない。
- 1：会員満足向上の必要性を認めない。
- 0：会員満足など考えたことがない。

(25)あなたのクラブの会員数は過去3年間でどのように推移しましたか。

- 4：会員数は増えている。
- 3：ほぼ3年前の会員数を維持している。
- 2：会員数は、3年前に比べて、～10%減少した。
- 1：会員数は、3年前に比べて、11～30%減少した。
- 0：会員数は、3年前に比べて、31%以上減少した。

③参考資料(4)クラブ活力テスト 活用の手引き

「クラブ活力テスト」活用の手引き

この「クラブ活力テスト」は、生き活きとした魅力的なロータリークラブへの復興を願うクラブが、自クラブの現在の問題点と活性度レベルを正確に把握し、活性度レベルを高めクラブの問題を解決していくために、今何をすべきか確認することを目的として作られています。

組織の硬直化

このテストの前提となるのは、「どんな組織も時間の経過とともに必ず硬直化する」という考え方です。

「組織の硬直化」とは、組織がその目的を見失ったり、目標を達成する意欲をなくしたり、成功体験におぼれて前例主義・画一化・リスク回避や変革を厭う体質に陥ったり、組織構成員間のコミュニケーションが不足し派閥ができたりなどして、機能不全になった状態をいいます。硬直化が進むと、その組織が掲げる目標を達成することも成果を上げることも難しくなります。

どんな組織も発足当初は活力に満ちあふれていますが、時が経過し、組織が拡大し機構が複雑化するとともに、残念ながらその機能が硬直化し活力を失っていきます。日本のロータリークラブの多くは、この「組織の硬直化」に直面しています。

「組織の硬直化」を放置すれば、その組織の活力は益々失われ、組織は衰退し、最後には崩壊してしまいます。硬直化から脱し、組織活力を回復させる方策はあります。ただ、組織の硬直化の度合いに応じて、その対策は異なります。このテストでは、クラブ組織の活性度／硬直度のレベルと、それぞれのレベルに応じた対応の方法を示しています。

ただし、この「クラブ活力テスト」は、クラブの現状を簡便に自己診断するツールですので、示されたレベル評価や対策は、あくまで目安と考え、自クラブの問題について、より具体的・個別的な分析・検討が必要です。

テストの背景にある価値観

- (7) ロータリー理念の普及と実践こそが、ロータリーの社会的存在価値を高める。各クラブの存在価値は、属する地域社会への貢献によって高まる。
- (8) ロータリー運動の主体は、一つ一つのクラブである。そして、クラブの活動の成否は、クラブ会員の主体的・自発的行動にかかっている。
- (9) 職業や国・地域や個性・能力等の多様性が、ロータリーの活力の源泉である。
- (10) 時代や社会環境の激変によって、ロータリークラブ（の組織や活動のあり

方)は、大きな変革を求められている。

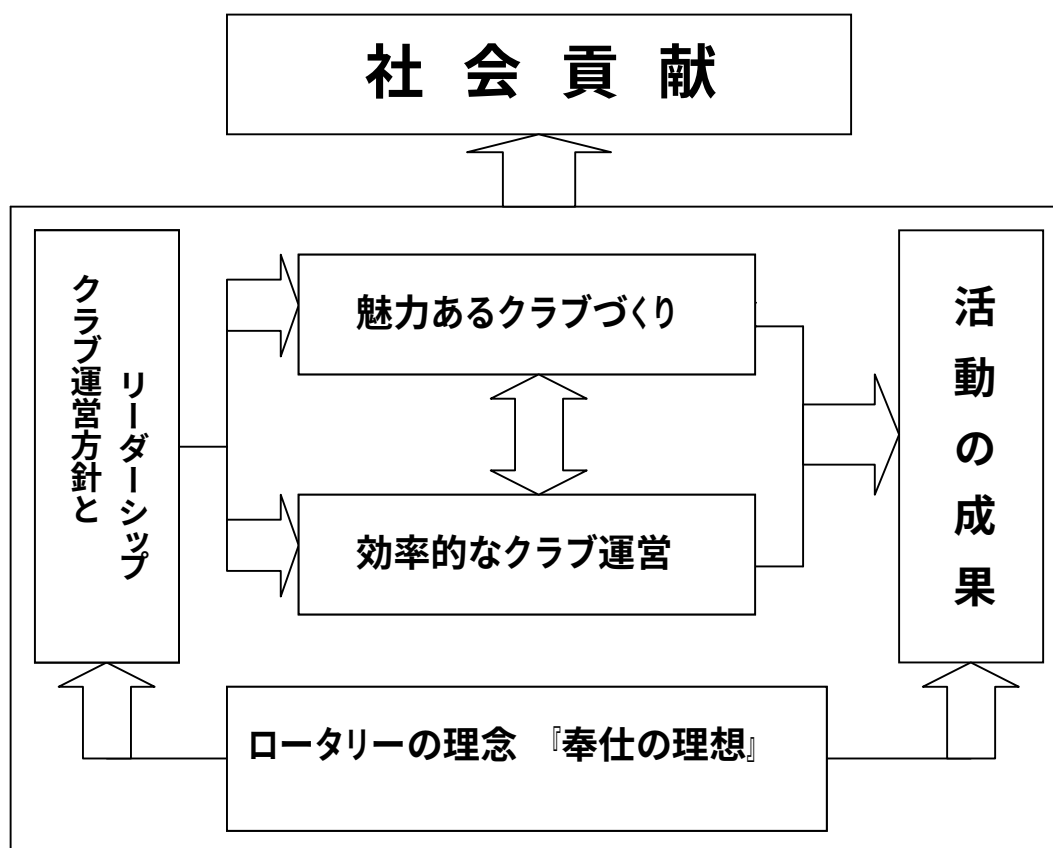
- (11) ロータリークラブを変革してゆくには、長期的なビジョン・戦略と、継続的な取り組みが必要である。
- (12) 一人一人の会員の満足度(充実感、参画意識、やりがい)を高めて行けば、クラブ全体の組織活力が高まり、効果的なクラブになる。

テストの構成

このテストでは、クラブ組織活性化の課題を次の5つの分野に分けています。

- 1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ
- 2. 社会貢献
- 3. 魅力あるクラブづくり
- 4. 効率的なクラブ運営
- 5. 活動の成果

このテストでは、まず5つの分野それぞれについて、機能が十全に働いているかどうかを診断し、次に5分野合計で、クラブ全体の活性度／硬直度を診断します。5つの分野の関連は、下図の通りです。



5つの分野それぞれに5項目の質問があり、5分野合計25項目の質問に答え、
 評点を付けます。⇒表1

＜表1. テストの構成＞

分 野	質問項目	評点
1. 理念・方針の浸透とリーダーシップ	5項目	0～20点（小計）
2. 社会貢献	5項目	0～20点（小計）
3. 魅力あるクラブづくり	5項目	0～20点（小計）
4. 効率的なクラブ運営	5項目	0～20点（小計）
5. 活動の成果	5項目	0～20点（小計）
	全25項目	0～100点（合計）

評価ガイドライン

各質問に示される評点は4、3、2、1、0の5段階で、活性度／硬直度のレベルに対応しています。（活性度／硬直度レベルは、活性度最大のAから硬直度最大のEまで）⇒表2.

＜表2. 評点ガイドライン＞

評 点	レベル	活性度／硬直度の状態
4	A	最も活力に満ち、機能を最大限発揮している
3	B	機能はほぼ発揮され、効果も上げている
2	C	安定はしているが、一部機能不全がみられる
1	D	硬直化が進み、機能不全の部分が多い
0	E	極度に硬直化し、機能が完全に麻痺している

各分野別に5項目の評点を集計して小計を出し（分野評価）、5つの分野の小計を集計して、合計点を出します（総合評価）。⇒表3.

＜表3. 評点合計とレベル＞

レベル	分野評価（小計）	総合評価（合計点）
A	18点～20点	88点～100点
B	13点～17点	63点～87点
C	8点～12点	38点～62点
D	3点～7点	13点～37点
E	0点～2点	0点～12点

総合評価は、「合計点」で「クラブ活性度／硬直度レベル」を把握し、そのレベルの「クラブの現状」とはどういう状態・段階にあるのか、その現状にふさわしい「対策（アドバイス）」は何か、を確認します。 ⇒表4.

＜表 4. 総合評価ガイドライン＞

合計点	レベル	クラブの現状	対策（アドバイス）
88 点以上	A	あなたのクラブは、すべての領域において、体系的・効率的で活力に満ちた運営が行われています。卓越した理念と活動・実績で、他クラブの模範となるリーダークラブです。	リーダークラブとして、他クラブや地区・RI そして地域社会に対して積極的に情報発信や価値を提供することを期待しています。今後も組織強化・革新の継続的取り組みをお願いします。
63～87 点	B	あなたのクラブは、多くの領域で良好な運営が行われており、他クラブの範となる活動・実績も見られます。メンバーの多くは、高い奉仕意欲を持っていますが、一部の領域で、コミュニケーション不足・機能不全が見られます。	平均点以上の現状に安住することなく、卓越したリーダークラブを目指して、改革を進めてください。特に、クラブ組織の強化、地域社会への貢献、リーダーロータリアンの育成が期待されます。
38～62 点	C	あなたのクラブは、ロータリーの理念に沿った活動を実施しており、一定の成果も上げていますが、一部の領域で硬直化が進み、メンバーの意識にもばらつきが見られます。	クラブの強みと弱みをメンバー全員で再確認し、体質改善・組織強化の中長期計画を策定し、それに基づいて、具体的プログラムを実施しましょう。メンバーのロータリアンとしての研鑽・学習にも力を入れてください。
13～37 点	D	あなたのクラブは、多くの領域で硬直化が進行し、組織として危機的な状況にあります。多くのメンバーは、クラブの現状や課題に無関心で、活動も沈滞しています。	早急に、クラブの現状認識を全員で共有化し、復興に向けて意思統一する必要があります。他クラブのベンチマーキングや地区・AG に相談することをお勧めします。
12 点以下	E	あなたのクラブは、極度に硬直化し、機能が完全に麻痺しています。組織としては既に崩壊した状態で、メンバーの気持ちは、ばらばらです。	メンバーの志を再確認し、抜本的な組織の再構築を行う必要があります。地区・AG の全面的な支援を仰いでください。

テストの運用基準

1. 【テストの目的】

このテストは、あくまで、自クラブの現状を会員が自主的に自己診断するためのチェックリストであり、他クラブと比較して順位付けを行うものではありません。したがって、評価は、主観的にかまいません。

2. 【適用範囲】

このテストは、「組織の硬直化」という考え方を前提としており、創立後一定の歴史を経たクラブの状態を想定して、各設問が作られています。目安としては、創立5年以上のクラブに適用できると考えています。

ただし、歴史の浅い創立5年未満のクラブであっても、「組織の硬直化」はすでに始まっている場合がありますので、そのチェックリストとして使用することができます。

また、歴史の浅いクラブは、各設問を、クラブ組織のあるべき状態・姿への到達段階を確認するチェックリストに読み換えて、準用してください。

3. 【定期的実施】

テストは定期的に（できれば、1年に1度）実施して、その結果を分析し、対策を講ずることを繰り返すことで、クラブ組織の活性度／硬直度のレベルを1ステップずつ継続的に高めて行くことが重要です。

4. 【実施対象】

まずは、幹部の皆さんが、自らクラブの現状を把握・分析するために実施してください。そして、できればクラブ改革の「特別委員会」を設置して、テスト結果を基に議論を深め、継続的に効果測定してゆくことが望まれます。

5. 【分析の仕方】

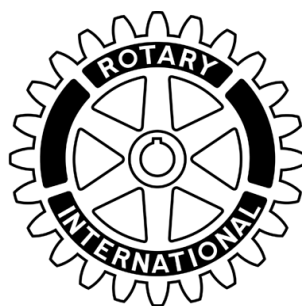
スコアの分析は、合計点だけでなく、分野毎・各設問別あるいはテスト回答者のクラブ内の階層毎というように多面的に行います。

例えば、5つの分野のスコア小計（20点満点）を比較すれば、あなたのクラブの強みや改善すべき分野がわかります。さらに、設問毎のスコア平均を比較し、評価の低い項目を順に5項目（ワースト5）抜き出して分析すれば、クラブの具体的な弱みも明確になります。

また、テスト回答者の、ロータリー歴や年齢層によるスコアのばらつき、あるいは役員と一般会員との間に明らかなスコアのギャップがあった場合は、クラブ内コミュニケーションの改善や共通認識の醸成のための手を打つ必要があると考えられます。

③参考資料(5) 『ロータリーとは』

(以下、54～62 ページまで、RI2680 地区 PDG 田中 毅氏のロータリー研修シリーズ『ロータリーとは』〈一部編集〉のパワーポイント配布資料を掲載)



前橋ロータリークラブ
21 世紀特別委員会